

# 新 CONTROL PANEL 操作方法

## 目次

<b>新コントロールパネルについて</b>	<b>3</b>
<b>各機能の概要・操作説明について</b>	<b>3</b>
<b>ログイン</b>	<b>4</b>
ログイン	4
ログアウト	4
<b>ユーザー権限・マルチドメイン</b>	<b>5</b>
ユーザー権限設定	5
ユーザー権限と Control Panel の機能一覧	5
<b>ダッシュボード・マイアカウント</b>	<b>7</b>
ダッシュボード	7
マイアカウント	8
パスワード変更	9
受信済みメール削除	11
メールフィルター設定（転送設定や迷惑メール対策）	13
メール自動返信設定	18
ウェブメール	20
<b>ユーザー</b>	<b>22</b>
ユーザー	22
ユーザー新規追加	23
ユーザー CSV 管理	25
ユーザー編集	29
ユーザー削除	30
ユーザー切り替え	31
<b>メール</b>	<b>32</b>
メール／メール使用量	32
ヴァーチャルメールアドレス	35
メーリングリスト	37
一括迷惑メールフィルター	43
メール機能一時停止	44
海外 SMTP 認証制限	45
<b>FTP</b>	<b>47</b>
FTP（アカウント一覧および新規追加）	47
<b>Web</b>	<b>48</b>
Web	48
ディスク使用量	49
プレビューサーバー	50
ファイルマネージャー	51
PHP 設定	60
カスタムエラー	61
cron 設定（旧コマンドスケジューラー）	62
モバイル設定（旧シングル URL）	65

---

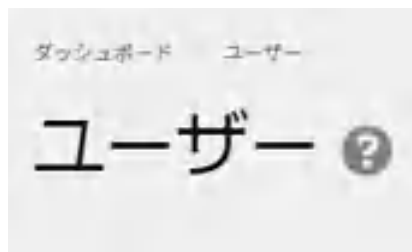
簡易 Web 脆弱性診断	67
データ移行ツール	73
<b>アクセス</b>	<b>75</b>
アクセス	75
アクセス解析	76
アクセス制限	78
<b>データベース</b>	<b>91</b>
MySQL データベース (MySQL5.7/8.0)	91
データベース設定/旧データベース (MySQL5.1)	100
<b>アプリケーション</b>	<b>109</b>
アプリインストーラー	109
インストール	109
アンインストール	112
標準 CGI	113


## 新コントロールパネルについて

新コントロールパネルでは、旧コントロールパネルとの機能差異が生じます。

新機能	ダッシュボード	ディスク使用状況や、Web 情報、利用中アプリケーションなどがダッシュボードから一目でわかるようにしました。
	マイアカウント	「個別ユーザー管理」の名称を変更いたしました。 FTP やメールのアカウント情報のほか、Web のドキュメントルートや利用中の PHP バージョンを確認できます。 ※ドメイン管理者・サイト管理者・一般ユーザーでご利用いただけます。
変更点	「ユーティリティ」カテゴリを削除	各機能を「Web」「アクセス」「データベース」カテゴリに移動しました。
	アプリインストーラーを「アプリケーション」カテゴリへ移動	標準 CGI や WordPress や Movable Type のアプリインストーラーをひとつにまとめました。
	「アクセス」カテゴリの追加	「アクセス制限」「アクセス解析」の外部からのアクセスに関する機能を独立したカテゴリとしてまとめました。
名称変更	シングル URL → モバイル設定	PC やスマートフォンの各種キャリアなど、クライアントの環境に応じて自動的にページを転送する機能を「シングル URL」から「モバイル設定」に名称変更いたしました。
	コマンドスケジューラー → cron 設定	スクリプトを定期的に処理する機能を「コマンドスケジューラー」から「cron 設定」に名称変更いたしました。
提供終了	アプリ・CGI 管理	アプリインストーラー内で WordPress、Movable Type のインストール、標準 CGI の提供を行っています。
	コマンド検索	機能提供を終了いたします。 Web 等で公開されている情報をご参照ください。
	Perl モジュール検索	
	Perl 文法チェック	

## 各機能の概要・操作説明について



各メニューに表示される  アイコンをクリックすると、機能概要がポップアップで表示されます。

## ログイン

### ログイン

ログイン URL にアクセスし、必要な情報を入力して [送信] ボタンをクリックします。

ログイン URL	※貴社コントロールパネルのログイン URL をご入力ください
----------	--------------------------------

The image shows a login form with three input fields and a button. The first field is labeled 'ドメイン名' (Domain Name). The second field is labeled 'ログインID (契約者アカウント名またはユーザー名)' (Login ID (Contractor account name or user name)). The third field is labeled 'パスワード' (Password). Below the fields is a button labeled '送信' (Send).

ドメイン名	ご契約のドメイン名をご入力ください
ログイン ID	契約者のユーザー名・コントロールパネルで作成されたユーザー名
パスワード	各ユーザーに割り当てられたパスワード

### ログアウト

Control Panel の右上に表示されるユーザー名と権限のプルダウンの箇所をクリックすると、[ログアウト] が表示されます。

[ログアウト] をクリックして、ログアウトできます。



## ユーザー権限

### ユーザー権限設定

ユーザー権限は以下のとおりです。

契約者	契約に関する手続き
ドメイン管理者	契約に関する手続き以外のすべての手続き
サイト管理者	主に Web に関する設定
一般ユーザー	個人のメールアドレスに対する設定変更

### ユーザー権限と Control Panel の機能一覧

	契約者	ドメイン管理者	サイト管理者	一般ユーザー
<b>ユーザー</b>				
ユーザー新規追加	● ※1	● ※2	—	—
ユーザーCSV 管理	● ※1	● ※2	—	—
ユーザー編集	●	●	—	—
ユーザー削除	●	●	—	—
<b>マイアカウント</b>				
ユーザー情報	—	●	●	●
パスワード変更	—	●	●	●
受信済メール削除	—	○	○	○
メールフィルター設定	—	○	○	○
メール自動返信設定	—	○	○	○
ウェブメール	—	○	○	○
<b>メール</b>				
メールボックス使用量確認	●	●	—	—
メールアドレス	●	●	—	—
メールリングリスト	●	●	—	—
ヴァーチャルメールアドレス	●	●	—	—
迷惑メールフィルター設定	●	●	—	—
メール機能停止	●	●	—	—

FTP				
FTP アカウント新規作成	●	●	—	—
FTP アカウントでの接続	—	●	●	—
Web				
ディスク使用量設定	●	●	—	—
ファイルマネージャー	●	●	●	—
プレビューサーバー	●	●	●	—
PHP	●	●	●	—
カスタムエラー	●	●	●	—
cron 設定	●	●	—	—
データ移行ツール	●	●	●	—
アクセス				
アクセス制限	●	●	●	—
アクセス解析	●	●	●	—
データベース				
MySQL データベース	●	●	●※4	—
アプリケーション				
アプリインストーラー	—	●	●	—
バックアップ	□	—	—	—

※1. 作成可能なユーザー権限：ドメイン管理者、サイト管理者、一般ユーザー作成可

※2. 作成可能なユーザー権限：サイト管理者、一般ユーザー

※3. 作成可能なユーザー権限：一般ユーザーのみ

※4. インスタンス作成時に許可された場合のみ利用可能

※5.

## ダッシュボード・マイアカウント

### ダッシュボード

ダッシュボードにはサーバーの利用状況についての概要、アラート通知などが表示されます。  
ログインしているユーザーのアカウント権限により、表示が異なりますのでご注意ください。

#### ■ 契約者アカウントでログインした場合



① データベース使用状況	各データベースのインスタンス名、データベース名、使用量などが表示されています。 ※オプションのお申し込み有無やデータベース作成状況により表示は異なります。
② Web 情報	ドキュメントルート(絶対パス)や Web サーバーの IP アドレスなどの情報が表示されています。
③ マイアカウント情報	FTP 接続情報およびメールサーバー情報等が表示されています。 ※FTP またはメール権限を付与していない場合は表示されていません。
④ アプリケーション	各アプリケーションの設定画面へのリンクが表示されています。 ※オプションのお申し込み有無により表示は異なります。



## マイアカウント

ログインしているユーザーの Web、FTP、メール等の情報の確認が行えます。

※表示するアカウント権限・設定内容により、表示が異なります。



## パスワード変更

### パスワードに使用できる文字列

A-Z、a-z、0-9、!#\$%&()-~^\_[]\*,:;.|@  
6 文字以上最大 32 文字で設定してください。

### ■ドメイン管理者・サイト管理者でログインした場合

ドメイン管理者/サイト管理者の権限のユーザーの ID で Control Panel にログイン後、マイアカウント情報の「**詳細を見る**」をクリック、または右上のユーザー名のプルダウンから「**マイアカウント**」をクリックし、マイアカウント画面のパスワード欄の**編集**をクリックします。



### ■一般ユーザーでログインした場合

各ユーザーの ID で Control Panel にログイン後、パスワード欄横の**編集**をクリックします。



## ■契約者またはドメイン管理者がユーザーのパスワードを変更する場合

左メニューの**ユーザー**から、対象ユーザー横の**編集**をクリックします。



変更後のパスワードを入力し、**保存**をクリックします。

**ユーザー編集** ?

ユーザー名: user

パスワード: [password field] **パスワード自動生成**

ユーザー権限: 一般ユーザー

メール・FTP: [checkboxes for email/ftp usage]

コメント: [text area]

**保存**

## 受信済みメール削除

ユーザーがメールソフトを使ってサーバーから受信した「**受信済みメール**」を、**サーバーのメールボックスからすべて削除する機能**です。  
※契約者アカウントやドメイン管理者で Control Panel にログインして、各ユーザーの受信済みメールをまとめて削除する場合は、メールボックス使用量確認をご確認ください。

### ■削除前の注意事項

#### ✓ 「IMAP」アカウントで受信（読み込み）をされている場合

未受信（未読）以外のメールはすべて削除され、メールソフトで受信（サーバーのメールデータを読み込み）しているメールも削除されます。そのため、**残しておきたいメールがある場合、POP 接続にてメールソフトで受信をしてから削除を行ってください。**  
ご利用のメールソフトによっては、POP アカウントから IMAP アカウントへの切り替えができないため、新たに POP 用のアカウントをメールソフトに設定することで POP 受信が行えます。

#### ✓ 「POP」アカウントで受信（端末へダウンロード）をされている場合

メールソフトの設定で「サーバーにメッセージのコピーを残す」設定にしている場合のみ、サーバーに受信済みメールが残っています。メールソフト（使用端末）に、受信したメールがデータとして保存されているため、サーバー内の受信済みメールを削除しても、メールソフト上でメールの確認ができます。

**※複数の端末で POP アカウントでのメール受信を行われている場合は、あらかじめ、最新のメールデータを各端末で POP 受信しておくことをお勧めいたします。**

**受信済みメール削除** が、薄いグレーの表示になっている場合は、受信済みメールはありません。

### ■ドメイン管理者およびサイト管理者でログインした場合

ドメイン管理者/サイト管理者の権限のユーザーの ID で Control Panel にログイン後、マイアカウント情報の「詳細を見る」をクリック、または右上のユーザー名のプルダウンから「マイアカウント」をクリックし、**受信済みメール削除** をクリックします。



## ■一般ユーザーでログインした場合

各ユーザーの ID で Control Panel にログイン後、「未受信数/受信済数」欄右横の**受信済メール削除**をクリックします。



## メールフィルター設定（転送設定や迷惑メール対策）

### ■ドメイン管理者およびサイト管理者でログインした場合

各ユーザーの ID で Control Panel にログイン後、「マイアカウント情報」の「詳細を見る」をクリック、または右上のユーザー名のプルダウンから「マイアカウント」をクリックして、**フィルター**をクリックします。



### ■一般ユーザーでログインした場合

各ユーザーの ID で Control Panel にログイン後、ページ下部の**フィルター**をクリックします。



## ■迷惑メールフィルター登録

「迷惑メールリスト」の欄にメールアドレスを入力し、「自動削除する」または「エラーメールを返す」のいずれかにチェックを入れ、**保存**をクリックします。

※「迷惑メールフィルター確認」の欄は、サーバーの管理者側で一括登録したメールアドレスが表示されており、登録されていない場合は空欄となっております。

① 対象メールアドレス	設定対象のメールアドレスが表示されています。
② 迷惑メールフィルター確認	サーバー管理者が一括登録したメールアドレスが表示されています。
③ 迷惑メールリスト	<p>拒否したい送信元（Return-Path）のドメイン名、または、メールアドレスを 1 行ずつ入力してください。</p> <p>【設定例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ <b>who@example.org</b> "who@example.org" から送信されるすべてのメールを受信拒否します。</li> <li>➤ <b>.org</b> ".org" から送信されるすべてのメールを受信拒否します。</li> <li>➤ <b>example.org</b> "example.org" から送信されるすべてのメールを受信拒否します。</li> </ul>

## ■メールフィルター登録

メールフィルター設定の右側の **新規追加** をクリックします。



メールフィルター名、条件、動作を入力の上、**保存** をクリックします。





メールフィルターの入力項目		
① メールフィルター名		<p>メールフィルターの名称を記入します。</p> <p>※メールフィルターを管理する上での便宜上のもので、設定には反映されません。</p>
② 条件	すべてのメール	<p>受信したすべてのメールにこのメールフィルターを適用します。</p> <p>[すべてのメール]を選択した場合、適用順序がこのメールフィルターより後のメールフィルターは適用されません。</p>
	メールのサイズが	<p>受信したメールのうち、メールのサイズが設定されたサイズ以上、または以下のものに、このメールフィルターを適用します。</p> <p>サイズは KB で指定し、[以上]、[以下]のいずれかを選択してください。</p>
	メールヘッダーが	<p>受信したメールのヘッダーと設定された文字列の比較結果に従ってこのメールフィルターを適用します。</p>  <p>対象のメールのヘッダーを選択します。</p> <p>目的のヘッダーがない場合、「その他」を選択し、カッコ内のテキストエリアに [X-Mailer:] 等のように入力してください。</p>  <p>2 行目のテキストボックスには、ヘッダーの文字列の中で一致させる文字列を [ABC Mailer] のように入力します。</p> <p>※日本語も入力できます。入力した文字列がメールヘッダーのどこに一致するかを、2 行目のリストから選択してください。</p>
③ 動作	自動削除する	<p>条件に一致したメールを自動的に削除する場合に選択します。</p> <p>受信したメールをサーバーへ保存せず、破棄します。</p>
	エラーメールを返す	<p>条件に一致したメールの送信者にエラーメールを返信する場合に選択します。</p> <p>受信したメールの送信者へエラーメールを送信し、受信したメールはサーバーに保存されません。</p>
	メールを転送する	<p>条件に一致したメールを指定されたメールアドレスへ転送します。</p> <p>転送先メールアドレスは 1 件以上入力してください。</p> <p>転送時にメールをサーバーに残しておきたい場合は、メールをメールボックスに残すにチェックしてください。</p>

## ■メールフィルターの順序

各メールフィルターの適応には順序があり、以下の順序で有効となります。

そのため、エンドユーザー側でフィルター設定をしても、上位のメールフィルターで、条件に該当したメールフィルターがあった時点で、下位のメールフィルターは適用されません。

順位	設定可能ユーザー	フィルター種別
①	契約者 ドメイン管理者	一括迷惑メールフィルター
②	全ユーザー※	個別の迷惑メールフィルター
③	全ユーザー※	動作が"自動削除する"、"エラーメールを返す"のメールフィルター
④	全ユーザー※	メール自動返信
⑤	全ユーザー※	動作が"転送する"のメールフィルター

※1. サイト管理者、一般ユーザーは、他ユーザーの設定は編集できません。

※2. フィルターの順序により、メール転送設定をしても、それより上位に該当するフィルターが機能した場合は、メールが転送されなくなります。設定している機能が動作しない場合は、上位のフィルター設定が先に機能している可能性がございますのでご確認ください。

※3. メールフィルター（転送）は複数利用ができません。2 つ以上登録をされた場合、1 つめの"転送する"フィルターのみが有効となり、2 つめ以降の"転送する"フィルターは無効となります。

## メール自動返信設定

メール自動返信の設定をしておくと、メールを受け取った際に送信者に自動的にあらかじめ設定しておいたメールの内容を返信することができます。

### ■ドメイン管理者およびサイト管理者でログインした場合

各ユーザーの ID で Control Panel にログイン後、「マイアカウント情報」の「詳細を見る」をクリック、または右上のユーザー名のプルダウンから「マイアカウント」をクリックして、**自動返信**をクリックします。



### ■一般ユーザーでログインした場合

各ユーザーの ID で Control Panel にログイン後、ページ下部の**自動返信**をクリックします。



## ■フィルターの設定内容

「自動返信メールの利用」を「利用する」に変更し、各項目を入力の上 **保存** をクリックして設定完了となります。

※自動返信メールを停止する場合には、「自動返信メールの利用」を「停止中」に変更してください。

The screenshot shows the 'メール自動返信設定' (Email Auto Reply Settings) interface. It features a toggle switch for '自動返信メールの利用' (Use auto reply email) which is currently set to '利用中' (In use). Below this are input fields for 'メールアドレス' (Email address), 'Subject', 'From', and 'Reply-To'. The 'From' field has a dropdown menu. At the bottom is a large text area for '本文' (Body). A '保存' (Save) button is located at the bottom right of the form.

① 自動返信メールの利用	「利用中」にすると、自動返信メール機能が有効になります。
② メールアドレス	自動返信メールを設定するメールアドレスが表示されています。
③ Subject	自動返信メールのメールタイトルに対応します。英語、日本語共に使用できます。
④ From	自動返信メールの差出人メールアドレスです。 初期値は対象のメールアドレスが入力されています。
⑤ Reply-To	自動返信メールの返信用アドレスとなり、通常は空欄のままにしておきます。 この設定は、自動返信メールを受け取った受信者がさらに返信をする際に、「From:」で指定されたメールアドレスとは異なるメールアドレスに返信させる場合に入力します。 なお、書式は「From:」と同様になります。
⑥ 本文	返信するメールの本文を入力します。 <b>本文の最大サイズは 10KB です。</b>

メールフィルター設定で、動作が「自動削除する」、「エラーメールを返す」に 設定されているルールが存在する場合、それらを適用後、メール自動返信処理を実行します。メール転送は行われませんので、ご注意ください。

## ウェブメール

旧 Control Panel と同じく、『Roundcube』を Web メールとして利用できます。

### ■ドメイン管理者でログインした場合

Control Panel にログインし、以下のどちらかの手順で Webメールのログイン画面が立ち上がります。

1. 左メニュー「メール」から、「Web メール」をクリックする。



契約者権限のアカウントでは、左メニューに「Web メール」が表示され、Webメールのログイン URL を開くことはできますが、メールアカウントの機能を有していないため、ログインすることはできませんので、あらかじめご了承ください。

2. ダッシュボード マイアカウント情報 [Webメールの URL]の URL 部分をクリック



### ■サイト管理者でログインした場合

ダッシュボード マイアカウント情報 [Webメールの URL]の URL 部分をクリックして Webメールを開くことができます。

### ■一般ユーザーでログインした場合

マイアカウント「メール情報」の [Webメールの URL]の URL 部分をクリックして Webメールを開くことができます。

Web メールログイン画面が表示されますので、情報を入力して **ログイン** をクリックします。



メールアドレス	コントロールパネルで作成された <b>ユーザー名@ドメイン名</b> の形式のメールアドレス
パスワード	各ユーザーに割り当てられたパスワード

## ユーザー

### ユーザー

「ユーザー」では、メールアカウントおよび FTP アカウントとなるユーザーの作成が行えます。



① 新規追加	メールアカウントおよび FTP アカウントの作成画面に進みます。
② CSV 管理	既存ユーザーの CSV エクスポートを行います。
③ ユーザー名	登録されているユーザー名が表示されています。
④ コメント	ユーザーに対してコメントを入れている場合に表示されます。
⑤ ユーザー権限	ドメイン管理者、サイト管理者、一般ユーザーなどユーザーに割り当てられている権限です。
⑥ メール・FTP	アイコンが表示されている場合はメールおよび FTP の利用権限があります。
⑦ ユーザー切り替え	ユーザーID でログインした場合の画面に推移します。
⑧ 編集	パスワードの確認・変更やアカウントの権限の変更、アカウントの削除が行えます。

## ユーザー新規追加

左メニューの「ユーザー」から**ユーザー新規追加**または**新規追加**をクリックし、新規登録を行います。



各項目を入力し、**保存**をクリックします。





ユーザー登録の各設定項目	
① ユーザー名	<p>Control Panel へログインするユーザー名になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ <b>メールアドレスを作成する場合</b>：メールアドレスは<b>ユーザー名@ドメイン名</b>となります。</li> <li>➤ <b>FTP アカウントを作成する場合</b>：FTP アカウント名は<b>ユーザー名@ドメイン名</b>となります。</li> <li>✓ <b>使用可能な文字</b>:a-z、0-9、ドット (.) ,ハイフン (-) ,アンダーバー ( _ )</li> <li>※ただし、先頭は a-z、0-9 のみ使用できます。</li> <li>✓ <b>使用可能な文字数</b>：6 文字～32 文字</li> </ul>
② パスワード	<p>作成するユーザーのログインパスワードを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ <b>使用可能な文字</b>:英数字 (A-Z、a-z、0-9) 記号 (!#\$%&amp;()-~^_[]*:.? @)</li> <li>✓ <b>使用可能な文字数</b>：6 文字～32 文字</li> <li>※ セキュリティー保持のため、パスワードには必ず大文字、小文字、数字を混在させてください。</li> <li>※ メールや FTP などのパスワードが必要なサービスにも、このログインパスワードを使用します。</li> <li>※ [パスワード自動生成]をクリックすると、8 文字のランダムなパスワードが自動生成されます。</li> </ul>
③ ユーザー権限	<p><b>一般ユーザー</b></p> <p>メールアドレスのみ必要なユーザーは、こちらの権限を設定してください。 「所属するウェブサイト」で対象ドメイン名を選択すると、ウェブ領域にユーザー専用のディレクトリが作成され、そのディレクトリに対してのみ FTP でアクセスすることができます。</p>
	<p><b>サイト管理者</b></p> <p>サイトの管理権限を付与するユーザーは、こちらの権限を設定してください。 「管理するウェブサイト」で対象サイトを選択すると、サイトのドキュメントルートに対して FTP でアクセスすることができます。 FTP アクセス権限を付与しつつ、メールアドレスを利用しない設定も可能です。</p>
	<p><b>ドメイン管理者</b></p> <p>ドメイン名内の全領域に対して FTP でアクセスすることができます。 またサイト管理者および一般ユーザーを作成することができます。</p>
④ メール・FTP	<p><b>メールのみ利用</b></p> <p>メールアドレスとしての利用のみで FTP 接続を行わないアカウントです。 「海外からの SMTP 認証を制限する」にチェックを入れると、国内からの SMTP 認証接続のみに制限ができます。</p>
	<p><b>FTP のみ利用</b></p> <p>FTP 接続のみ行い、メールアドレスとしての利用はしないアカウントです。</p>
	<p><b>メール・FTP 利用</b></p> <p>メールアドレスとしての利用および FTP 接続を行うアカウントです。 「海外からの SMTP 認証を制限する」にチェックを入れると、国内からの SMTP 認証接続のみに制限ができます。</p>
⑤ コメント	<p>作成するユーザーに対してコメントを付けられます。(省略可能)</p> <p><b>使用可能な文字数</b>：半角 64 文字 (全角 32 文字) まで</p> <p>※ ユーザーの管理をする際に分かりやすいよう氏名・所属・利用目的等の入力をおすすめします。</p>
⑥ [+]さらに追加	<p>複数のアカウントを作成する場合、[さらに追加]をクリックすると追加分の入力画面が表示されます。</p>

## ユーザーCSV 管理

カンマ区切りの CSV ファイルをアップロードしてユーザーを一括登録したり、登録されているユーザーを CSV 形式で出力したりすることができます。CSV 一括登録や、テキスト一括登録で登録されたユーザーは、既に登録済みのユーザーに追加されます。

- CSV 一括登録
- テキスト一括登録
- ユーザー情報バックアップ/CSV ダウンロード

### ■CSV データの書式

メモ帳などのテキストエディタや、表計算ソフトなどで以下の順にカンマ区切り(CSV)形式のファイルを作成します。

ユーザー,コメント,パスワード,メール,権限,対象サイト

ユーザー	ユーザー名
コメント	ユーザーについてのコメント ※省略可
パスワード	ユーザーのパスワード ※使用できる文字列：A-Z、a-z、0-9、!#\$%&()-~^_[]*,:; .?!@
メール	ユーザーがメールを作成するか ➤ 作成する：1 ➤ 作成しない：0
権限	ユーザーの権限 ➤ ドメイン管理者：2 ➤ サイト管理者：1 ➤ 一般ユーザー：0 ※ドメイン管理者やサイト管理者は登録可能な数に限りがありますのでご注意ください。
対象サイト	管理、または所属するサイトです。 ※権限が 1（サイト管理者） または 0（一般ユーザー） の場合のみ有効

## ■CSV一括登録

左メニューの「ユーザー」を開き、画面右側の **CSV 管理** に進みます。



「CSV アップロード」枠内の **ファイル選択** をクリックし、お客様の PC 内のユーザー登録用の CSV ファイルを選択します。



ユーザー登録が完了したかを確認するには、あらためて「ユーザー」から「CSV 管理」を選択してください。

登録が完了していない場合は、**再表示** をクリックして進捗を確認できます。登録が完了した場合は、**OK** をクリックしてユーザー一覧の画面をご確認ください。



## ■テキスト一括登録

左メニューの「ユーザー」を開き、画面右側の **CSV 管理** に進みます。



「テキスト一括登録」枠内のフォームに必要な情報をカンマ区切りで入力し **登録** をクリックします。

ユーザー登録が完了したかを確認するには、あらためて「ユーザー」から「CSV 管理」を選択してください。

登録が完了していない場合は、**再表示** をクリックして進捗を確認できます。登録が完了した場合は、**OK** をクリックしてユーザー一覧の画面をご確認ください。



## ■ユーザー情報バックアップ/CSV ダウンロード

左メニューの「ユーザー」を開き、画面右側の **CSV 管理** に進みます。



画面を下部までスクロールし、「ユーザー情報バックアップ」に表示される **CSV ダウンロード** をクリックします。

※出力されるデータは、ログインしているユーザーより下位権限のユーザーデータのみです。

※ドメイン管理者の情報をダウンロードしたい場合は、契約者アカウントでログインしてご利用ください。



## ユーザー編集

契約者・ドメイン管理者の権限で Control Panel にログインし、作成されたユーザーの各設定を確認・編集できます。

※ユーザー名の修正は行えませんので、あらかじめご了承ください。

左メニューの「ユーザー」をクリックし、ユーザー一覧の中から編集したいユーザー名の右側の **編集** をクリックします。



変更が完了したら、**保存** をクリックすると編集が反映されます。

## ユーザー削除

契約者およびドメイン管理者の権限で登録されているユーザーを削除することができます。

### ■ユーザー削除前の注意事項

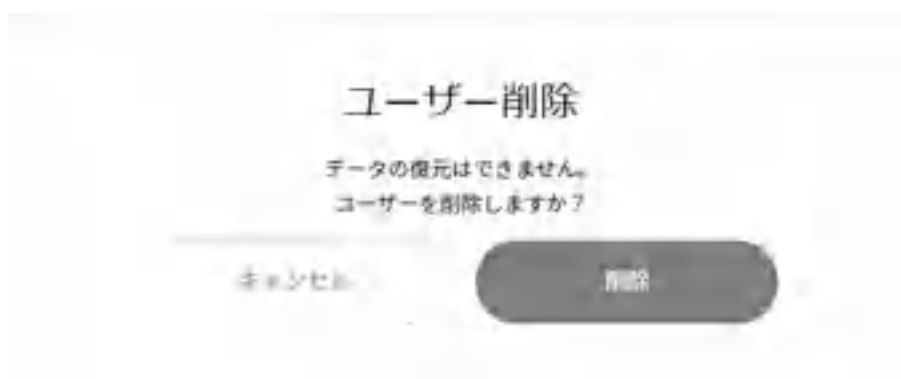
ユーザーを削除すると、そのユーザーのメールアドレスやサーバー上のメールがすべて削除されます。

また、一般ユーザー権限のユーザーで、「所属するウェブサイト」や「ウェブサイトを使用する」設定にしているユーザーを削除した場合、ユーザーのホームディレクトリ以下がすべて削除されますのでご注意ください。

左メニュー「ユーザー」に進み、削除するユーザーの左側にチェックを入れ、**削除**をクリックします。



確認画面で**削除**をクリックすると、チェックしたユーザーが削除されます。



## ユーザー切り替え

契約者およびドメイン管理者の権限で登録されているユーザーを削除することができます。

- ※ サイト管理者・一般ユーザーで Control Panel にログインしている場合、ユーザー切り替えの機能は利用できません。
- ※ 「各種アプリケーション」や、「アプリインストーラー、標準 CGI、アプリ・CGI 管理」など、ユーザー切り替えで利用できない機能があります。

左メニュー「ユーザー」から、切り替えたいユーザー右側の**切替**をクリックすると、選択したユーザーでログインしたときと同様の TOP 画面に切り替わります。



切り替え前の画面に戻る場合には、画面下の**元のユーザーに戻す**をクリックしてください。





## メール

契約者、ドメイン管理者のアカウントでログインすると、メール画面で以下のような設定や作業を行えます。

- メールアドレスの新規追加（ユーザー新規追加）
- メールアドレスの一覧の確認
- サーバー内での全メールボックスの合計容量の確認
- 各メールユーザーのメールの受信数、未受信数の確認
- 各メールユーザーの個別でのメール利用容量の確認
- 各メールユーザーの受信済みメールの一括削除（未受信メールは削除対象外）
- 各メールユーザーへのメールフィルター画面への移動と設定
- 各メールユーザーへの自動返信画面への移動と設定

## メール／メール使用量

Control Panel にログインし、左メニューの「メール」をクリックすると、メールに関する各種情報の一覧が表示されます。



※1 ページに最大 10 件まで一覧表示されます。

メール機能一覧	
①メールアドレス	メールアドレスの一覧および新規作成等が行える TOP 画面です
②メールリングリスト	メールリングリストに関する操作はこちらをクリックします。
③ヴァーチャルメールアドレス	ヴァーチャルメールアドレスに関する操作はこちらをクリックします。
④新規作成	<u>メールアドレスの新規作成（ユーザー新規追加）</u> の画面に進みます。
⑤メール使用量	ご契約内で利用できるメールの最大容量と現在の使用量が表示されます。
⑥使用量通知設定	一定の使用量の超過した場合に通知する宛先を設定できます。
⑦更新	<input type="button" value="更新"/> を押下すると使用量の情報が更新されます。（1 時間ごと）
⑧メールアドレス	メールを利用しているユーザー名が表示されます。
⑨コメント	ユーザーのコメントが表示されます。
⑩未受信/受信済	<p>サーバーに保存されている未受信、受信済みのメール件数が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 未受信：メールソフトで受信していないメール件数</li> <li>➤ 受信済：メールソフトで受信済みで、かつ、サーバーに残っているメール件数</li> </ul>
⑪使用状況	<p>サーバーに保存されているメールの総容量が表示されます。</p> <p>※リアルタイムでの表示ではないため、反映されるまで多少お時間を要します。</p>
⑫受信済メール削除	<p>サーバーに保存されている受信済みのメールをすべて削除することができます。</p> <p><input type="button" value="削除"/>をクリックし、確認画面で <input type="button" value="削除"/>をクリックすると受信済メールがすべて削除されます。</p> <p>受信済メールの削除を実行できるのは、ログインユーザーの権限よりも下位の権限のユーザーに対してのみです。</p> <p>※IMAP をご利用の場合、未受信（未読）以外のメールがすべて削除されてしまうため、受信済みで残しておきたいメールがある場合には、POP 接続にてメールソフトで受信してから削除を行ってください。</p>
⑬海外 SMTP 認証制限	<p>対象ユーザーのメールアドレスに対し、日本国外からの SMTP 接続を制限する機能です。</p> <p><input type="button" value="設定"/>をクリックして「国内のみ/制限なし」の切り替えが可能です。</p>
⑭フィルター	対象ユーザーのメールフィルターを設定できます。
⑮自動返信	対象ユーザーの自動返信を設定できます。

## ■使用量通知設定

全体のメール使用量が、一定の使用量を超過した場合に指定されたメールアドレス宛てに通知できます。

※ 使用量が逼迫すると、メール送受信エラーなどが発生する可能性があります。  
 サーバーに受信したメールは POP アカウントなどでメールデータをご利用の端末にダウンロード（保存）し、一定期間経過後にサーバーから削除する設定などをご利用ください。

メール使用量の右に表示される **使用量通知設定** をクリックすると、通知設定の画面が開きます。

メール・Web の警告を通知する使用量をプルダウンから選択し、送信先を入力して **保存** をクリックします。

通知先のメールアドレスは、3 つまで指定できます。



## ヴァーチャルメールアドレス

ヴァーチャルメールアドレスとは、お客さまのドメインのメールアドレスに着信したメールを、メールボックスに入れずに他のメールアドレスに中継する機能です。

左メニューの「メール」に進み、上部タブの「ヴァーチャルメールアドレス」をクリックします。



①新規追加	ヴァーチャルメールアドレスの新規登録画面へ遷移します。
②削除	チェックを入れて <b>削除</b> をクリックすると削除できます。
③ヴァーチャルメールアドレス	登録されているヴァーチャルメールアドレスが表示されます。
④コメント	登録されているヴァーチャルメールアドレスのコメントが表示されます。
⑤編集	登録情報の変更画面へ遷移します。

### ■ヴァーチャルメールアドレスの新規登録

左側メニューの「メール」から上部タブの「ヴァーチャルメールアドレス」に進み、**新規作成** をクリックします。



必要項目を入力して **保存** をクリックして登録完了です。

①ヴァーチャルメールアドレス	ヴァーチャルメールアドレスのアカウントを入力します。 ※ユーザーに登録されているユーザー名は使用できません。
②コメント	ヴァーチャルメールアドレスに対するコメントを入力できます。 ※省略可
③転送先メールアドレス	転送先メールアドレスはに登録できる件数はプランにより異なります。

## ■ヴァーチャルメールアドレスの削除

左メニューの「メール」から上部タブの「ヴァーチャルメールアドレス」に進み、対象のヴァーチャルメールアドレスにチェックを入れると **削除** を

クリックできるようになります。確認画面が表示されますのでヴァーチャルメールアドレスを確認して **削除** をクリックして削除完了です。



## メーリングリスト

### ■メーリングリストの新規登録

「メール」の「メーリングリスト」に進み、**新規追加**をクリックします。



### ➤ 基本設定

登録画面に必要事項を記入し、**保存**をクリックします。



※ 返信先（Reply-To）の任意のアドレス指定はできない仕様です。

①メーリングリスト名	メーリングリストの名称を入力します。 ※日本語入力可
②メーリングメールアドレス	<p>メーリングリストのメールアドレスを登録します。</p> <p>✓ <b>使用可能な文字:</b> <b>a-z、0-9、ドット (.)、ハイフン (-)、アンダーバー (_)</b></p> <p>※ただし、先頭は a-z、0-9 のみ使用できます。</p> <p>✓ <b>使用可能な文字数:</b> <b>最大 32 文字</b></p>
③管理用アドレスの転送先	<p>管理用メールアドレスに送られたメールを転送するメールアドレスです。</p> <p><b>お客さまドメイン内の実メールアドレスを指定</b>してください。</p> <p>※ヴァーチャルメールアドレスや、ほかのメーリングリストのアドレスは使用できません。</p>
④インフォメーションの言語	メーリングリスト参加・コマンドを送信した際に送られてくる案内メールの言語が表示されます。
⑤コマンド送信できるユーザー	<p>メーリングリストに対して、コマンドを送信できるユーザーを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ <b>誰でも:</b> 誰でも任意に ML 参加のコマンドなどを送信できます。</li> <li>➤ <b>モデレーターのみ:</b> 管理者の承認なしには参加できないようにします。</li> </ul> <p><b>【メーリングリストで利用可能なコマンド】</b></p> <p>「メール」から「メーリングリスト」に進み、対象メーリングリスト右側の編集をクリックし、拡張設定「help (ML のヘルプ)」の枠内のテキスト「3.1 情報の取り寄せ・基本的なコマンド」の箇所からご確認いただけます。</p>
⑥投稿できるユーザー	<p>メーリングリストに対して、メール（記事）の投稿ができるユーザーを選択します。</p> <p>通常は「メンバーのみ」に設定 し、メーリングリストのメンバーだけが投稿できるようにします。</p> <p>メンバー全体に対してダイレクトメール配信を目的にする場合には、「モデレーターのみ」に設定 し、勝手に投稿されないようにします。</p>
⑦受信可能サイズ	<p>メーリングリストに投稿可能なメールのサイズを KB 単位で設定します。</p> <p>通常のテキストメール程度であれば、50～100 KB 程度で十分です。</p> <p><b>最大で 10,000KB まで受信可能</b>です。</p>
⑧その他設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ <b>Subject:に通し番号を付ける</b> このオプションを有効にすると、投稿メールの表題に自動的に番号が入ります。例えば、メーリングリストアドレスが abc@お客さまドメイン名だった場合には、[abc 1] テストのようになります。</li> <li>➤ <b>コマンドを受信拒否した場合にエラーを返す</b> このオプションを有効にすると、コマンド送信を許可されていないユーザーからのコマンドを拒否し、送信者にエラーをメールで返します。オプションを無効にしている場合には、エラーは管理者のみに送信されます。</li> <li>➤ <b>投稿を受信拒否した場合にエラーを返す</b> このオプションを有効にすると、投稿を許可されていないユーザーからの投稿を拒否し、送信者にエラーをメールで返します。オプションを無効にしている場合には、エラーは管理者のみに送信されます。</li> </ul>

## ➤ メンバー登録

メーリングリストのメンバーを下記のいずれか方法で登録できます。

- CSV一括登録：CSV ファイルのアップロード形式（メールアドレスをカンマ区切りで記載）
- テキスト一括登録：枠内にメールアドレスを記入形式（メールアドレスを 1 行ずつ記載）

なお、メーリングリストに参加したメンバーへ、メーリングリストの welcome メールを送信する場合は、「welcome メール」の箇所にある「新規メンバーに welcome メールを送信する」にチェックをいれてください。

## ➤ 拡張設定

基本設定の「コマンド送信できるユーザー」「投稿できるユーザー」でモデレーターを選択した場合、モデレーターのメールアドレスを登録します。すべての入力が完了したら **保存** をクリックして登録完了です。

<b>①モデレーターの設定</b>	<p>メーリングリストの基本設定で、「コマンド送信できるユーザー」「投稿できるユーザー」に「モデレーターのみ」を選択した場合に設定します。</p> <p>送信されたコマンドおよび投稿されたメールはモデレーターへ送信され、モデレーターが承認した場合のみ処理されます。</p>
<b>②通し番号</b>	<p>メーリングリストの基本設定で、「Subject に通し番号を付ける」設定をしている場合に有効です。</p> <p>メーリングリストにメールが投稿される度に 1 が加算されていきます。この数値を任意に編集することが可能です。</p>





③メッセージの編集	<b>confirm(登録確認)</b>	<p>ユーザーが参加を希望する場合に、本当に参加するかどうかを確認するためのメッセージです。</p> <p>fml では、セキュリティの都合上、一度 <b>subscribe</b> コマンドを送信しても、即座にはメンバーになりません。</p> <p>再度ユーザーの参加意志を確認します。</p>
	<b>deny (投稿拒否)</b>	<p>ユーザーが、メーリングリストのメンバーでなく、コマンドや投稿が拒否された場合に返すエラーの文章を記述します。</p>
	<b>guide (ML のガイド)</b>	<p>メーリングリストの簡単な案内を記述します。</p>
	<b>help (ML のヘルプ)</b>	<p>メーリングリストのコマンドリファレンス等のヘルプを記述します。</p> <p>通常はデフォルトのまま使用します。</p>
	<b>objective (ML の目的)</b>	<p>メーリングリストの話題の中心になる、メーリングリストの目的を記述します。</p>
	<b>welcome (登録時の挨拶)</b>	<p>ユーザーがメーリングリストに参加した際に送信される歓迎の文章を記述します。</p>

## ■メーリングリスト一覧

左メニュー「メール」から、「メーリングリスト」のタブを開くと、登録しているメーリングリストの一覧が表示されます。



①削除	削除するメーリングリストにチェックを入れると <b>削除</b> ボタンが表示されます。
②メーリングリスト名	登録されているメーリングリストの名前が表示されます。
③メーリングリストアドレス	登録されているメーリングリストのアドレスが表示されます。
④メンバー数	メーリングリストのメンバー登録数と登録可能な最大数が表示されます。
⑤編集	メーリングリストの設定変更画面に進みます。
⑥メーリングリスト数	ご利用中のメーリングアドレスと利用可能なメーリングアドレス数が表示されています。

## ■メーリングリストの編集

登録してあるメーリングリストのメンバー編集や各種設定の変更が行えます。

メーリングリスト右側の **編集** をクリックし、各項目を編集後、**保存** をクリックします。

各項目の説明につきましては、[メーリングリストの新規登録](#)の項目をご参照ください。



## ■メーリングリストの削除

「メール」から「メーリングリスト」に進み、削除対象のメーリングリストにチェックを入れ、**削除** をクリックします。



確認画面が表示されますので、確認の上、**削除** をクリックして削除完了です。

## 一括迷惑メールフィルター

迷惑メールフィルター（最大 200 件まで）を、全ユーザーに一括で設定・管理することができます。

契約者またはドメイン管理者で Control Panel にログインし、左メニューの「メール」から「迷惑メールフィルター設定」に進みます。

続いて、「迷惑メールリスト」欄に拒否したいメールアドレスまたはドメイン名を入力し、「動作」を選択して **保存** をクリックして設定します。



<p>①迷惑メールリスト</p>	<p>拒否したい送信元のドメイン名またはアドレスを 1 行ずつ入力してください。</p> <p><b>【設定例】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ <b>who@example.org</b> "who@example.org" から送信される全てのメールを受信拒否します。</li> <li>✓ <b>.org</b> ".org" から送信される全てのメールを受信拒否します。</li> <li>✓ <b>@example.org</b> "@example.org" から送信される全てのメールを受信拒否します。</li> </ul>
<p>②動作：自動削除する</p>	<p>条件に一致したメールを自動的に削除する場合に選択します。 受信したメールをサーバーへ保存せず破棄します。</p>
<p>③動作：エラーメールを返す</p>	<p>条件に一致したメールの送信者にエラーメールを返信する場合に選択します。 受信したメールの送信者へエラーメールを送信し、受信メールはサーバーに保存されません。</p>

## メール機能一時停止

メール機能一時停止は、Control Panel から、メールに関わる機能の 一時停止/停止解除 を行う機能です。  
契約者およびドメイン管理者のユーザーで設定が行えます。

**メール機能を一時停止すると、全てのメールアドレス、メールリングリスト、ヴァーチャルメールアドレスが停止状態となり、メール内部配送の発生を防ぐことができます。なお、サーバー上に保存されているメールは削除されませんが、受信・送信はできません。メール機能の停止を解除すると、停止状態だった全てのメールアドレス、メールリングリスト、ヴァーチャルメールアドレスが再稼働し、即時利用可能となります。**

契約者またはドメイン管理者アカウントで Control Panel にログインし、「メール」から「メール機能停止」に進みます。  
「現在のメール機能の状態」の「停止中-利用中」のスイッチをクリックします。



確認画面が表示されますので、確認の上、**停止する** をクリックします。



一時的に停止していたメール機能を有効にするには、同様の手順で「停止中-利用中」のスイッチをクリックし、「利用中」に変更します。

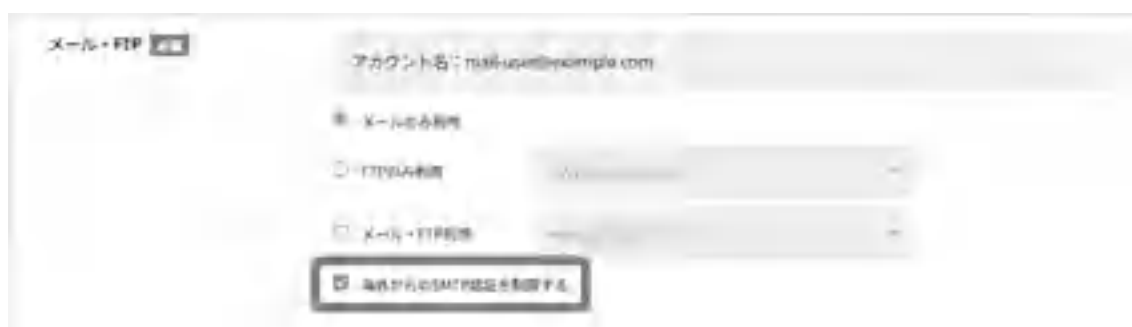
## 海外 SMTP 認証制限

お客さまのメールアドレスが第三者から不正に利用されないよう、日本国外からの SMTP 接続を制限する機能です。  
一時的に海外からご利用になる場合、そのタイミングで「国内のみ/制限なし」の切り替えも可能です。

国内のみ	有効	SMTP サーバーへの接続を国内のみに制限します。
制限なし	無効	海外（日本国外）からの SMTP サーバーへの接続を制限しません。 メールアドレス利用者本人が海外からメール機能を利用する場合は、こちらの設定が必要です。

### ■ユーザー新規追加時に設定する

契約者またはドメイン管理者のアカウントで Control Panel にログインし、[ユーザー新規追加](#) > ユーザー登録の画面で  
メール・FTP 項目内の「海外からの SMTP 認証を制限する」にチェックを入れます。



### ■契約者またはドメイン管理者が既存のメールアドレスに海外 SMTP 認証制限を一括設定する場合

契約者またはドメイン管理者のアカウントで Control Panel にログインし、左メニュー「メール」をクリックします。

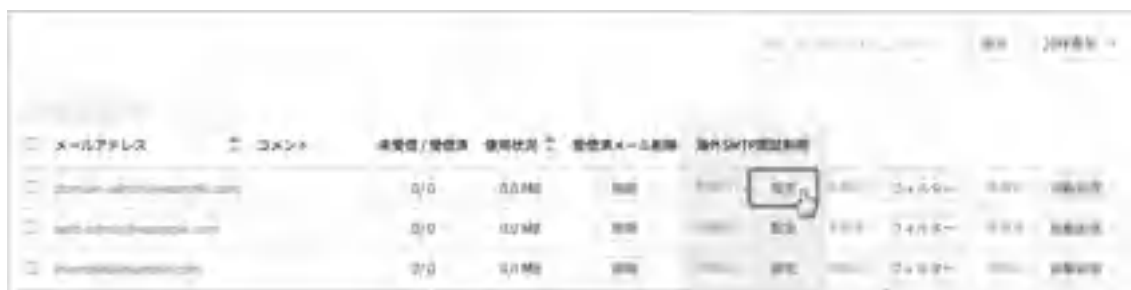
メールアドレス一覧の画面で制限をかけたいメールアドレス左のチェックボックスにチェックをいれ、一覧の左上に表示される  
**海外 SMTP 認証制限** をクリックすると、一括で制限をかけることができます。



## ■契約者またはドメイン管理者が既存のメールアドレスに海外 SMTP 認証制限を個別に設定する場合

契約者またはドメイン管理者のアカウントで Control Panel にログインし、左メニュー「メール」をクリックします。

メールアドレス一覧の画面で制限をかけたいメールアドレス右の「海外 SMTP 認証制限」列から **設定** をクリックすると、そのメールアドレスに個別で制限をかけることができます。



## ■サイト管理者・一般ユーザーが自身のメールアドレスに海外 SMTP 認証制限を設定する

サイト管理者または一般ユーザーのアカウントで Control Panel にログインし、マイアカウントを表示します。

マイアカウントページの画面下部「海外 SMTP 認証制限」の「設定」をクリックして制限をかけることができます。



## FTP

登録されている FTP アカウントの一覧が表示されます。

### FTP（アカウント一覧および新規追加）

- ※ 契約者アカウントでは、FTP アカウントの追加、各ユーザーの FTP に対する設定の確認・変更のみが行えます。  
FTP 接続は行えません。
- ※ 一般ユーザーの場合、ウェブ領域にユーザー専用ディレクトリが作成され、そのディレクトリに対してのみ FTP アクセスできます。

左メニューの「FTP」をクリックすると、現在サーバーに設定されている FTP アカウントの一覧が表示されます。

FTP アカウントを追加する場合は、**新規追加**をクリックして、[ユーザー新規追加](#)に進みます。



一覧の FTP アカウントの部分をクリックすると、FTP 接続情報およびパスワードの変更が行えます。

#### FTPアカウント情報

ユーザー	domainadmin
ユーザー名	ドメイン名
FTPアカウント	domainadmin@sample.com
FTPパスワード	お客様のログインパスワード
FTPサーバー	接続の場所 ftp.sample.com DNS設定の場合



- ※ FTP パスワードの **編集** から、FTP アカウントのパスワードを変更すると、メールアカウントや Control Panel のログインパスワードも変更となりますのでご注意ください。



## Web

### Web

Control Panel にログインし、左メニューの「Web」をクリックすると、Web サーバーに関する各種情報の一覧が表示されます。



① ディスク使用量	Web サーバーの使用量が表示されます。 右側の更新ボタンをクリックすると最新の情報をご確認いただけます。 ※更新ボタンをクリック後、1 時間以上経過すると再度クリックできます。
② ファイルマネージャー	Web ブラウザから、ファイル、ディレクトリの各種操作を行えるファイル管理ツールです。
③ 対象サイト	ご利用中のドメイン名が表示されます。
④ ドキュメントルート(絶対パス)	割り当てられたドキュメントルートが表示されます。
⑤ PHP バージョン	利用している PHP バージョンが表示されます。
⑥ SSL サーバー証明書	SSL 証明書利用時の URL、SSL の有効期限（日時）、ステータスが表示されます。
⑦ 共用 SSL URL	割り当てられた共用 SSL の URL を確認できます。 ご利用のドメイン名の前に、共用 SSL サーバー名が入ります。
⑧ Web サーバーIP アドレス	そのドメイン名で利用する Web サーバーの IP アドレスを確認できます。
⑨ プレビューサーバー	DNS 切り替え前にウェブサイトアクセスできる機能です。
⑩ 時刻	確認時点の時刻が表示されます。

## ディスク使用量

### ■Web の使用量確認

左メニューの「Web」をクリックすると確認できます。



### ■メールの使用量確認

左メニューの「メール」をクリックすると確認できます。



### ■使用量通知設定

Web、メールともに一定の使用量の超過した場合に通知するメールアドレスを設定できます。

**使用量通知設定** をクリックし、超過容量とメールアドレスを指定し、**保存** をクリックして設定完了です。



## プレビューサーバー

プレビューサーバーは、DNS 切り替え前にウェブサイトを疑似的に表示して確認できる機能です。

- ※ WordPress や Movable Type など、データベースを使用しているアプリケーションや、CGI で動作する、「動的コンテンツ」の場合、プレビューサーバーでは表示できない場合があります。上記のようなコンテンツの確認は、PC に hosts ファイルの設定を行ってからブラウザよりご確認ください。
- ※ プレビューサーバーでは、相対パス（./example.jpg）で記述されている画像は表示されません。また、同じく相対パスのリンクなどは正常に動作しませんので、ご注意ください。

### ■プレビューサーバーへのアクセス

左メニューの「Web」から「プレビューサーバー」の URL の箇所をクリックすると、プレビュー画面が表示されます。



停止となっている場合（URL が表示されていない場合）は、**停止** をクリックして **稼働** に変更すると URL が表示されます。



## ファイルマネージャー

Web ブラウザから、ファイル、ディレクトリの各種操作を行えるファイル管理ツールです。

- 新規ファイルの作成 / ディレクトリの作成
- サーバーへのファイルのアップロード
- ファイルの名前変更 / ファイルのコピー / ファイルのモード変更 / ファイルの削除 / ファイルの移動

※ 各ファイルやディレクトリの作成、ファイルのアップロードを行う前に、対象にディレクトリまで進んでから作業を行ってください。

Control Panel にログインし、左メニューの「Web」から「ファイルマネージャー」にアクセスします。



## ■新規ファイルの作成

ファイル設置場所のディレクトリまで進み、**新規ファイル作成**をクリックするとファイル作成画面が表示されます。



ファイル名、文字コード、パーミッション、本文を記述し、**保存**をクリックして作成完了です。



## ■ディレクトリの作成

ディレクトリ設置場所まで進み、**新規ディレクトリ作成**をクリックします。



ディレクトリ名、パーミッションを指定して**保存**をクリックして作成完了です。



## ■ファイルのアップロード

アップロード先のディレクトリまで進み、**アップロード**をクリックします。



ポップアップ内の**ファイル選択**をクリックしてファイルを選択し、**アップロード**をクリックします。



## ■ファイルの名前変更

対象ファイルにチェックを入れて **名前変更** をクリックし、ファイル名を入力して **保存** をクリックします。





## ■ファイルのコピー

対象ファイルにチェックを入れて **コピー** をクリックします。コピー先のディレクトリを指定し、ファイル名を入力し、**保存** をクリックします。



## ■ファイルのモード（パーミッション）変更

対象ファイル右側の **編集** をクリックし、パーミッションを入力して **保存** をクリックします。

**ファイルマネージャ**

名前	モード	パーミッション	サイズ	更新日時	操作
index.html	-	755	-	2022/11/08 18:18	編集
index.html	-	644	347 B	2022/11/08 18:18	編集
index.html	-	644	0 B	2022/11/17 19:01	編集
index.html	-	644	0 B	2022/11/17 19:01	編集
index.html	-	644	0 B	2022/11/17 19:01	編集

↓

**ファイル編集**

ファイル名: index.html

文字コード: UTF-8

パーミッション: 644

☒ オーナー  
☒ グループ  
☒ その他

☒ 実行  
☒ 実行  
☒ 実行

チェックのオンオフでパーミッションの数値が自動的に変わります

最終更新日時: 2022/11/08 18:18

保存 保存して実行 ダウンロード

キャンセル 実行

## ■ファイルの削除

対象ファイルにチェックを入れて**削除**をクリックし、対象ファイルをご確認のうえ、**削除**をクリックします。

※ 削除したファイルは元に戻せませんのでご注意ください。



## ■ファイルの移動

対象ファイルにチェックを入れて**移動**をクリックし、移動先のディレクトリを指定して**保存**をクリックします。



## PHP 設定

サーバーで利用する PHP バージョンの設定・確認・変更が行えます。

※ PHP のバージョンを切り替えた場合、プログラムを修正しないと正常に動作しなくなる可能性があります。お手数ですが、スクリプト配布元の動作要件や、プログラムの内容をご確認いただき、適切なバージョンをご選択ください。

Control Panel にログインし、「Web」から「PHP」のメニューをクリックすると、現在利用している PHP バージョンが表示されます。



PHP のバージョンを切り替える場合は、対象のバージョンにチェックを入れて **保存** をクリックします。



## カスタムエラー

お客さまが独自で作成された、Web サイトの HTTP エラー用ページを指定できます。

Control Panel にログインし、「Web」内の「カスタムエラー」に進み、エラーコード別に設定し、**保存**をクリックして設定完了です。



エラーコード		カスタマイズできるエラーコードです。
説明	401	パスワード認証に失敗した場合のエラーコード
	403	アクセス制限でウェブサイトが表示できない場合のエラーコード
	404	ファイルが見つからない場合のエラーコード
	500	サーバー内部でエラーが発生した場合のエラーコード
説明	サーバー初期ページ	ウェブサーバー標準のエラーページです。カスタマイズしない場合に選択してください。
	カスタム初期ページ	サンプルのエラーページです。ドキュメントルートのディレクトリにエラーコード.html が作成されます。必要に応じてファイルを編集してください。
	ユーザー設定ページ	エラーページをファイル指定できます。ファイル設置場所を / から絶対パスで指定します。 例) error/my404.html

## cron 設定（旧コマンドスケジューラー）

旧 Control Panel のコマンドスケジューラーで設定されていたコマンド実行のスケジュールを確認、追加、変更、削除が行えます。

### ■スケジュール新規追加

Control Panel にログインし、左メニューの「Web」から「cron 設定」に進み、**新規追加**をクリックします。



各項目を選択・入力の上、**保存**をクリックします。



①	繰り返し設定	実行したい日や曜日等を指定します。
②	実行時刻	実行したい時刻を指定します。
③	コマンドパス	<p>指定された日時に実行するスクリプトの保存場所を指定します。</p> <p>パスは、Web のホームディレクトリからの相対パスになります。</p> <p>【設定例】<a href="http://www.example.com/test.cgi">www.example.com/test.cgi</a></p>

## ■スケジュールの編集

対象スケジュール右側の **編集** をクリックします。



内容を編集後、**保存** をクリックします。





## ■スケジュールの削除

削除対象のスケジュールにチェックを入れ、**削除**をクリックします。



確認画面が表示されますのでご確認の上、**削除**をクリックします。



モバイル設定（旧シングル URL）

Web サイトにアクセスした端末（User-Agent）を判定し、指定した URL へ転送する機能です。

※ 転送先 URL に指定するディレクトリやファイルは、事前に作成しておく必要があります。

Control Panel にログインし、左メニューの「Web」から「モバイル設定」に進み、User-Agent と転送先 URL を入力して、

**保存** をクリックします。

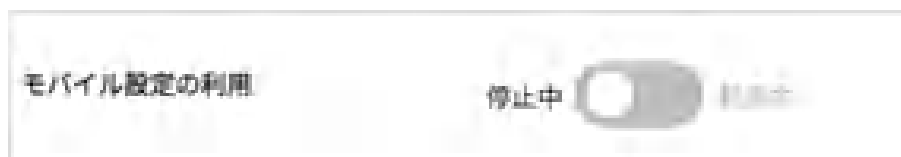
※初期設定では「停止中」となっていますので、「停止中」の状態が必要情報を入力して保存してください。



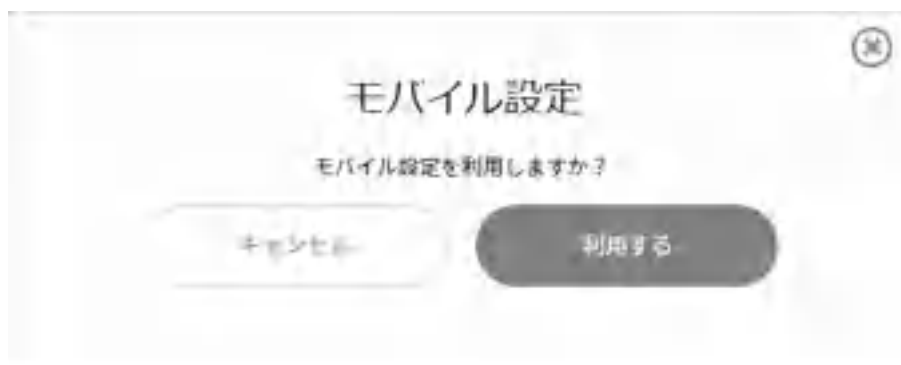
対象サイト	モバイル設定の対象となるサイトが表示されます。
モバイル設定の利用	初期値では「停止中」となっていますので、使用する場合は「利用中」に変更します。
User-Agent	転送する User-Agent を指定します。主な携帯端末とその User-Agent は上記一覧をご参照ください。 ※User-Agent は機種によって変更される可能性がありますのでご注意ください。
転送先 URL	User-Agent が一致した場合に転送する先の URL を指定します。 入力書式は／からの絶対パスで記述してください。※画面キャプチャ内の URL は見本です。

携帯端末	User-Agent	携帯端末	User-Agent
iPhone	iPhone	NTT ドコモ	DoCoMo
iPad	iPad	au	KDDI
Android	Android	SoftBank	SoftBank

「モバイル設定を保存しました」と表示されたら、「モバイル設定の利用」の「利用中」をクリックします。



確認画面で、**利用する**をクリックします。



※ iPhone や Android などの場合、UserAgent の形式がほかのキャリアと異なるため、.htaccess ファイルを以下のように手動にて変更していただくことでキャリアの判別が可能となります。

FTP でダウンロード、またはファイルマネージャーから「www.ドメイン名」のディレクトリ配下にある「.htaccess」にアクセスして、内容を編集します。（^ (キャレット) の箇所を消します。）

#### 【変更前】

```
RewriteEngine On
RewriteCond %{HTTP_USER_AGENT} ^iPhone
RewriteRule ^$ /iphone/ [R=302]
RewriteCond %{HTTP_USER_AGENT} ^Android
RewriteRule ^$ /android_site/ [R=302]
```

#### 【変更前】

```
RewriteEngine On
RewriteCond %{HTTP_USER_AGENT} iPhone
RewriteRule ^$ /iphone/ [R=302]
RewriteCond %{HTTP_USER_AGENT} Android
RewriteRule ^$ /android_site/ [R=302]
```

## 簡易 Web 脆弱性診断

本サービスはお客さまの Web サイトの脆弱性診断を実施できるサービスです。

- ※ 診断対象はドメイン内のサイトのみです。
- ※ 1 ドメインにつき、1 日 3 回までのご利用制限があります。
- ※ パッシブスキャン（攻撃を伴わない静的な診断）のみを実施いたします。
- ※ 多くのお客さまにご利用いただいた場合、診断実施にお時間をいただく場合がございます。
- ※ 診断結果（CSV）は英語でのご提供です。日本語は非対応となりますのでご了承ください。

※ 本機能でご提供する脆弱性診断は、指定された URL を対象に、攻撃を伴わないパッシブスキャンのみを実施します。攻撃を伴わない簡易診断のため、特にリスクの高い脆弱性など、全ての脆弱性を発見できるものではありません。  
また、検知された脆弱性の内容についての調査・修正はサポート対象範囲外となります。予めご了承ください。

### ■簡易 Web 脆弱性診断を開始する

契約者またはドメイン管理者で Control Panel にログインし、「ドメイン切り替え」で設定したいドメインを選択



Control Panel の「Web」メニューから「Web 脆弱性診断」をクリック



診断 URL 一覧 の **新規追加** クリック



「診断対象の URL」に対象サイトを選択し **開始** をクリック

※ 「診断対象の URL」のプルダウンから、URL を選択する場合、「**www あり**」「**www なし**」「**https://**」から選択できます。



診断対象 URL	http://www.お客さまドメイン名/
	http://お客さまドメイン名/
	https://secure*.***.shared-server.net/www.お客さまドメイン名/ ※*の箇所はお客さまによって表記が異なります。

ご入力いただいた URL により、以下のエラーメッセージが表示される場合があります。

入力内容をご確認の上、あらためて入力をお試しください。

診断情報入力時のエラーメッセージ	
URL が存在しません。	対象 URL が確認できない場合に表示されます。
パスが長すぎます。	パス名の文字数が超過しています。
パスに使用できない文字が入力されています。	指定されたパスに使用できない文字が入力されています。
パスが存在しません。	指定されたパス（ディレクトリ・ファイル）が Web サーバー上で確認できない場合に表示されます。
診断 URL へのアクセスがタイムアウトしました。	タイムアウトエラーです。 数分程度、時間をおいてあらためてお試しください。
認証が必要なため、診断できません(CODE:401)。	対象のディレクトリやファイルに BASIC 認証などが設定されている場合に表示されます。
アクセスが拒否されました(CODE:403)。	対象のディレクトリやファイルへのアクセスが行えない場合に表示されます。パーミッションをご確認ください。
診断 URL へのアクセスに失敗しました(CODE:500)。	なんらかの理由でサイトへアクセスできない場合に表示されます。 アクセス可能かご確認の上、あらためてお試しください。
エラー：DNS が外部のホストを参照しています。	簡易 Web 脆弱性診断は、ご利用の Web サーバー内を診断対象とします。Web サイトの DNS レコードが外部サーバーへ接続されている場合は診断できません。

正常に開始された場合、「診断サイトを追加しました」のメッセージが表示され、診断サイト一覧の URL・診断状態が表示されます



## 「状態」の一覧

順番待ち	「開始」して定期実行が行われる間、もしくは診断が込み合っていて順番待ち
診断中	診断処理中。中止で「停止中」に移行
停止中	停止指示を出して、実施処理が停止待ちの間
停止済	停止済み
完了	診断が成功
診断失敗	診断処理が失敗して終了

※ 診断にかかる時間は、対象のサイトのディレクトリー・ファイル数により異なります。

## ■「状態」が「診断失敗」となった場合

脆弱性診断の登録が成功した場合も、診断開始から診断終了までになんらかの事由で診断が失敗する場合があります。

## 「診断失敗」の一覧

診断の最大時間を超えました	制限時間内(60 分)に診断が終わらない場合に表示されます。 サブディレクトリを指定するなど、対象を絞って実行してください。
結果ファイルの保存に失敗しました	Web ディレクトリへの結果の保存に失敗した場合に表示されます。 Web のディスク使用量をご確認ください。
検出上限を超えました	脆弱性の検出数が多すぎる場合に表示されます。 サブディレクトリを指定するなど、対象を絞って実行してください。



画面右上の **更新** をクリック後、診断サイト一覧の URL 右に表示される **結果取得** をクリック



「web\_security\_report.csv」のファイル名で CSV ファイルがダウンロードされますので、内容をご確認ください。



## ■診断結果について

診断結果は、CSV ファイルでの取得のほか、JSON 形式のファイルがお客様の Web ディレクトリ内に自動的に保存されます。

※契約者・ドメイン管理者の権限でのみ確認が可能です。

1. [Web] メニューをクリック
2. [ファイルマネージャー] をクリック
3. ディレクトリ「web\_security\_report」をクリック

<b>診断結果 JSON ファイル パス</b>	<div>                     /ドメイン名/web_security_report/www.ドメイン名_yyyyMMddhhmmss_XXXXXX.json                 </div> <div>                     ➤ yyyyMMddhhmmss : 診断日時                 </div> <div>                     ➤ XXXXXX : 一意の数字が割り当てられます                 </div>
----------------------------------	--



## ■Web サイト脆弱性診断の結果確認

※ 診断結果（CSV 形式）の内容はすべて英語で出力されます。（日本語非対応）  
 お手数ですが、翻訳ツールなどをご利用いただき、内容をご確認ください。

Risk	URL	Ident	Name	Description	Solution	Link
Low	http://www.example.com	GET	Information Disclosure - Debug Error Messages	The response appeared to contain information messages returned by platforms such as ASP.NET and Web-services such as J2EE. The Application-Header (Content-Type-Options) was not set to 'noSniff'. This allows older versions of Internet Explorer and Chrome to perform HTML sniffing on the response body, potentially causing the response body to be interpreted and displayed as a content type other than the	Disable debugging messages before putting the code into production.  Ensure that the application/web services sets the Content-Type header appropriately, and must set the Content-Type-Options header to 'noSniff' for all web pages. If possible, ensure that the end user gets a standards-compliant and modern web browser that does not perform HTML-sniffing. Most modern Web browsers support the Content-Type-Options HTTP header. Include it in all web pages returned by your site if you expect the page to be framed only by pages on your server (e.g., it's part of a FRAMESET) that you want to use SAMESITE.	https://owasp.org/www-project-secure/alerts/10021 https://www.cisco.com/eng/Sec/alerts/10021
Low	http://www.example.com	GET	X-Content-Type-Options Header Missing	The response body potentially causing the response body to be interpreted and displayed as a content type other than the	Ensure that the application/web services sets the Content-Type header appropriately, and must set the Content-Type-Options header to 'noSniff' for all web pages. If possible, ensure that the end user gets a standards-compliant and modern web browser that does not perform HTML-sniffing. Most modern Web browsers support the Content-Type-Options HTTP header. Include it in all web pages returned by your site if you expect the page to be framed only by pages on your server (e.g., it's part of a FRAMESET) that you want to use SAMESITE.	https://owasp.org/www-project-secure/alerts/10021 https://www.cisco.com/eng/Sec/alerts/10021
Medium	http://www.example.com	GET	X-Frame-Options Header Missing	X-Frame-Options header is not included in the HTTP response to protect against "clickjacking" attacks.	Most modern Web browsers support the X-Frame-Options HTTP header. Include it in all web pages returned by your site if you expect the page to be framed only by pages on your server (e.g., it's part of a FRAMESET) that you want to use SAMESITE.	https://owasp.org/www-project-secure/alerts/10021 https://www.cisco.com/eng/Sec/alerts/10021

Risk : 危険度	Informational 情報	報告された脆弱性の危険度が表示されます。 Information, Low, Medium, High の順で危険度が上がり、 <b>High</b> は急ぎ対応が必要になります。
	Low 低	
	Medium 中	
	High 高	
URL : 対象 URL		脆弱性が発見された URL です。
Method : HTTP メソッド		URL の HTTP リクエストのメソッドです。 GET, POST, DELETE, PUT などがあります。
Name : アラート名		脆弱性の名称です。 対象 URL（対象ファイル）にどのような脆弱性が発見されたかの概要です。
Description : 詳細		脆弱性の概略です。 対象 URL（対象ファイル）にどのような脆弱性が発見されたかが表示されます。
Evidence : 再現方法		脆弱性の再現方法です。
Solution : 解決策		脆弱性の解決方法です。
Link : 参照リンク		対象の脆弱性が該当する共通脆弱性タイプ（CWE）のリンクを記載しています。 「 <a href="#">JVN iPedia - 脆弱性対策情報データベース</a> 」 「 <a href="#">ZAP アラート詳細</a> 」 の参照リンクが表示されます。

## データ移行ツール

他社でご利用のサーバーのウェブサイトのコンテンツを弊社のサーバーへ簡単に転送できるツールです。

※ あらかじめ移行元のサーバー情報（FTP 接続情報）をお手元にご用意ください。

Control Panel にログインし、「Web」から「データ移行ツール」に進み、各項目に情報を入力し、**開始**をクリックします。



①移行先サイト	サーバーで利用されているドメイン名を選択し、コピー先のディレクトリを指定します。 「www.ドメイン名」のホームディレクトリへコピーする際は、ディレクトリの指定はせず空欄にします。
②サイト IP アドレス	移行元の FTP サーバーの IP アドレスを入力します。
③FTP アカウント	移行元のサーバーの FTP アカウントを入力します。
④FTP パスワード	移行元サーバーの FTP アカウントのパスワードを入力します。
⑤サイトディレクトリ	移行元サーバーのサイトのディレクトリを指定します。 ※指定されたディレクトリ配下のファイルやディレクトリをコピーします。 ※空欄の場合は、移行元サーバーのホームディレクトリ以下をコピーします。
⑥タイムスタンプ	FTP コピー中、サーバー上に同名のファイルやディレクトリが存在した場合、タイムスタンプをチェックするか指定できます。 タイムスタンプをチェックする場合、存在するファイルよりタイムスタンプが新しい場合にのみ上書きされますが、チェックしない場合はすべて上書きとなります。

データ移行状況を更新して確認します。

**開始**をクリック後、「データ移行を開始しました」と表示されますので、再度「データ移行ツール」画面に戻るとデータ移行状況が確認でき

ます。**FTP ログダウンロード**をクリックすると、「web\_mirror.log」のファイル名で FTP ログをダウンロードできます。

- ※ データ量によっては時間を要する場合がございますのでご了承ください。
- ※ データ移行に失敗した場合は入力情報が誤っている可能性がございますので、入力情報をご確認いただき、再度移行をお試しください。



## アクセス

### アクセス

「アクセス解析」、「アクセス制限」の設定、および、設定内容の確認が行えます。

Control Panel にログインし、左メニューの「アクセス」をクリックすると、Web へのアクセスに関する各種情報の一覧が表示されます。

右側の **詳細** をクリックすると、各項目確認や設定・編集が行えます。



## アクセス解析

「アクセス」下の「アクセス解析」をクリックします。初期状態ではアクセス解析しない設定となっているため、**編集**をクリックします。



ログ保存：する」にチェックを入れると項目が表示されます。

「Analog ログ解析：する」にチェックを入れるとさらに項目が表示されます。各項目を入力し、**保存**をクリックします。



対象サイト	設定するサイト名です。
ログ保存	「する」にチェックを入れます。
ログ保存形式	どの形式であるかを指定します。 保存したログファイルはホームディレクトリ下のディレクトリ「access_log」の下に置かれます。 ※ログ解析を行う場合は、必ず 1 日以上ログの保存を行ってください。
保存日数	ログを保存する日数を指定します。これを越えたログファイルは自動的に消去されます。 日数は 100 日までです。これ以上の保存が必要な場合は FTP やファイルマネージャーでダウンロードを行ってください。
Analog ログ解析	「する」にチェックを入れます。
レポート言語	解析レポートの HTML の言語を指定します。日本語か英語が選択できます。
レポートを置くディレクトリ	解析レポートの HTML ファイルを保存するディレクトリです。 存在するディレクトリを指定してください。
レポートのファイル名	解析レポートの HTML ファイルの名前を指定します。
除外するファイル	解析にあたってアクセス記録から除外するファイル名を改行で区切って指定します。 入力書式は / からの絶対パスで記述してください。
除外するリモートホスト	解析にあたってアクセス記録から除外するアクセス元ホストを改行で区切って指定します。 ドメイン名や IP アドレスの指定が可能です。 例) 「192.168.」で始まるホストからのアクセスを解析から除く場合には、以下のように入力します。 192.168.*

設定した情報が表示されましたら設定完了です。

Web ブラウザより表示が可能なためレポートを置くディレクトリには、第三者が閲覧できないようアクセス制限を設定することをお勧めしております。

解析結果は、毎日解析対象期間の翌日中に更新され、基本設定で設定した場所に配信されます。表示方法は以下のとおりです。

#### ご契約ドメイン名：お客さまドメイン名

レポートを置くディレクトリ：analog

レポートのファイル名：report.html

#### <アクセス解析結果の表示 URL>

お客さまドメイン名/analog/report.html

## アクセス制限

「アクセス制限」では、海外からのアクセス制限の設定や、任意の Web サイト（ディレクトリ）への BASIC 認証（ユーザー名/パスワード認証）の設置、特定 IP アドレスからのアクセスを制限することができます。

### ■海外 Web アクセス制限

海外からの不正なアクセスに対して、アクセスを制限したい場合などにご利用ください。

不正有無に関わらず海外からの Web サイトへのアクセスが不可となります。

なお、海外 Web アクセス制限の初期設定は「有効」となります。

- 無効：海外からのアクセスを許可している状態
- 有効：海外からのアクセスを制限している状態

海外からのアクセス制限の設定を変更したい場合は、Control Panel にログインし、「アクセス」から「アクセス制限」に進み、有効無効の表示部分をクリックして変更します。



海外 Web アクセス制限を有効にしたまま、海外の特定 IP アドレスからのアクセスだけ許可したい場合は、Web サーバーのアクセス制限をかけたいディレクトリに「.htaccess」ファイルを設置し、一部の IP アドレスを許可する設定に変更してください。

Allow From **許可したい任意の IP アドレス** ※任意の IP アドレスを入力します。

Deny From all

Order Deny,Allow

Satisfy any

例)

Allow From **192.0.2.0**

Deny From all

Order Deny,Allow

Satisfy any

## ■ユーザー認証（Basic 認証）の設定

任意の Web サイト（ディレクトリー）へのパスワード認証の設置や、特定 IP アドレスからのアクセスを制限することができます。

Control Panel にログインし、「アクセス」項目内の「アクセス制限」に進み、**新規追加**をクリックします。



必要な情報を入力して、**保存**をクリックします。





URL	設定したいディレクトリ名を入力 ※Web サイト全体に BASIC 認証をかけたい場合は、URL のフォームは空欄のまま問題ありません。
制限設定	ユーザー認証 の左上のラジオボタンにチェック
アラートメッセージ	BASIC 認証のウィンドウ内に表示させるメッセージを「半角小文字英数と記号（.-_）」で入力します。 ※日本語は使用できません。 ※BASIC 認証を示す.htaccess の記述内「Auth name」の内容に該当します。
ユーザー名	任意のユーザー名を入力します。 ※複数のユーザーを登録する場合は「[+]さらに追加」部分をクリックして行を追加してください
パスワード	任意のパスワードを入力します。 ※1～32 文字の英数字と記号 <b>! # \$ % &amp; ( ) - ~ ^ _ [ ] * : ; . ?   @</b>

### .htaccess と.htpasswd

アクセス制限の「ユーザー認証（Basic 認証）」で設定すると、指定した対象のディレクトリに、以下のような「.htaccess」ファイルと「.htpasswd」ファイルが生成されます。

※ユーザー認証設定後、ファイルマネージャーからご確認いただけます。

#### ✓ .htaccess

AuthType Basic

AuthName "アラートメッセージに入力した内容"

AuthUserFile /home/users/webXX/X/X/XXXXXXXXX/www.example.com/指定したディレクトリ/.htpasswd

Require valid-user

#### ✓ .htpasswd

ユーザー名:ハッシュ化されたパスワード

## ■ホスト制限の設定

アクセス元のホスト名または IP アドレスを指定してアクセス制限をかけます。

Control Panel にログインし、「アクセス」項目内の「アクセス制限」に進み、**新規追加**をクリックします。



必要な情報を入力して、**保存**をクリックします。



URL	設定したいディレクトリ名を入力 ※Web サイト全体にホスト制限をかけたい場合は、URL のフォームは空欄のままで問題ありません。
制限設定	ホスト制限 の左上のラジオボタンにチェック
アクセス制限	以下のいずれかを選択 アクセスを全て許可し禁止ホストを編集する。 アクセスを全て禁止し許可ホストを編集する。 高度な設定
禁止ホスト/許可ホスト	禁止または許可したいホスト名や IP アドレスを、空欄に入力します。 ※複数指定する場合、半角スペース（空白）や改行で区切って指定できます。 ※「all」と書くとすべてのアクセス元を指定したことになります。
パスワード	任意のパスワードを入力します。 ※1～32 文字の英数字と記号 <b>！＃\$％＆（）～＾＿［］＊：；．？ ＠</b>

➤ 特定のホストや IP アドレスからのアクセスを禁止する場合

「アクセスを全て許可し禁止ホストを編集する。」にチェックを入れ、「禁止ホスト」欄にホスト名または IP アドレスを入力し、**保存**をクリックします。

ホスト制限

アクセス制御

☒ アクセスを全て許可し禁止ホストを編集する。  
☐ アクセスを全て禁止し許可ホストを編集する。  
☐ 通常は禁止

禁止ホスト

保存

➤ 特定のホストや IP アドレスからのみアクセスを許可する場合

「アクセスを全て禁止し許可ホストを編集する。」にチェックを入れ、「許可ホスト」欄にホスト名または IP アドレスを入力し、**保存**をクリックします。

ホスト制限

アクセス制御

☐ アクセスを全て許可し禁止ホストを編集する。  
☒ アクセスを全て禁止し許可ホストを編集する。  
☐ 通常は禁止

許可ホスト

保存

## ➤ 高度な設定

「高度な設定」にチェックを入れ、「許可ホストのほうを優先的に実行」または「禁止ホストのほうを優先的に実行」にチェックを入れて

「許可ホスト」「禁止ホスト」欄に ホスト名または IP アドレスを入力し、**保存**をクリックします。

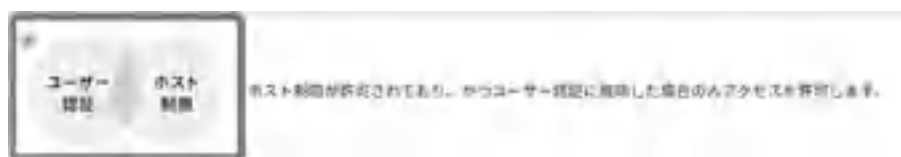
## ■ユーザー認証 + ホスト制限の設定

ホスト制限が許可されており、かつ、ユーザー認証に成功した場合のみアクセスを許可します。

Control Panel にログインし、「アクセス」項目内の「アクセス制限」に進み、**新規追加**をクリックします。



必要な情報を入力して、**保存**をクリックします。



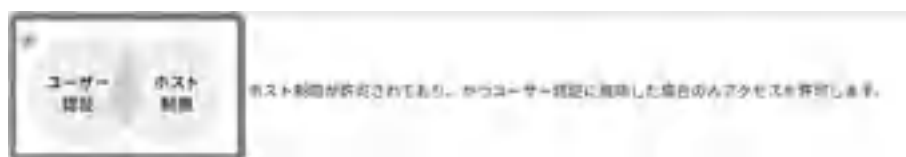
## ■ユーザー認証またはホスト制限の設定

ホスト制限が許可されている、または、ユーザー認証に成功した場合のどちらでもアクセスを許可します。

Control Panel にログインし、「アクセス」項目内の「アクセス制限」に進み、**新規追加**をクリックします。



必要な情報を入力して、**保存**をクリックします。



## ■アクセス制限の編集（一時的な停止を含む）

設定したアクセス制限の変更やユーザー認証の追加等が行えます。

Control Panel にログインし、「アクセス」項目内の「アクセス制限」に進み、対象項目右側の **詳細** をクリックします。



設定済みのアクセス制限の設定等を変更する場合は、左側の **編集** をクリックします。



内容を編集後、**保存** をクリックします。

一時的に制限を停止したい場合は「ユーザー認証・ホスト制限の両方を使用しない」にチェックを入れて無効化にします。



「ユーザー認証・ホスト制限の両方を使用しない」にチェックをいれて **保存** をクリックし、一覧に戻ると「無効」と表示されます。





## ■認証ユーザーの追加登録

認証ユーザーを追加で登録する場合は、「アクセス」項目内の「アクセス制限」に進み、設定済みのアクセス制限左の **編集** をクリックします。続いて、アクセス制限詳細ページ下部の「ユーザー認証登録」右側の **新規追加** をクリックします。

アクセス制限詳細

URL

追加Webアクセス制限

ユーザー認証登録

☐ ユーザー名 ☐ パスワード ☐ コメント

ユーザー認証新規追加

URL

1 ユーザー登録 ①

ユーザー名  (パスワード)  コメント

2 CSV一括登録 ②

CSVファイルにて、ユーザーを一括登録します。

CSVアップロード

既存のユーザーは上書きしない。

3 テキスト一括登録 ③

CSV形式で読み込み、ユーザーを一括登録します。  
登録したデータは、既に登録済みのユーザーに追加されます。

認証ユーザーの追加は以下のいずれかの方法を選択し、ユーザー情報を入力後、**保存**をクリックします。

①ユーザー登録	<p>1 件ずつ枠内にユーザー名、パスワードを登録していく方法です。</p> <p><b>パスワード自動生成</b>をクリックすると、ランダムなパスワードが自動生成されます。</p>
②CSV一括登録	<p>登録情報を記載した CSV ファイルを用意してアップロードする方法です。</p> <p>▼書式 ユーザー,パスワード,コメント</p>
③テキスト一括登録	<p>枠内にユーザー名,パスワードを記入して登録する方法です。</p> <p>▼書式 ユーザー,パスワード,コメント</p>

## ■認証ユーザーの CSV ダウンロード

登録してある認証ユーザーの情報をダウンロードできます。

Control Panel にログインし、「アクセス」項目内の「アクセス制限」に進み、対象項目右側の**詳細**をクリックします。



アクセス制限詳細ページ下部までスクロールし、「ユーザー情報バックアップ」の項目の**CSV ダウンロード**をクリックします。

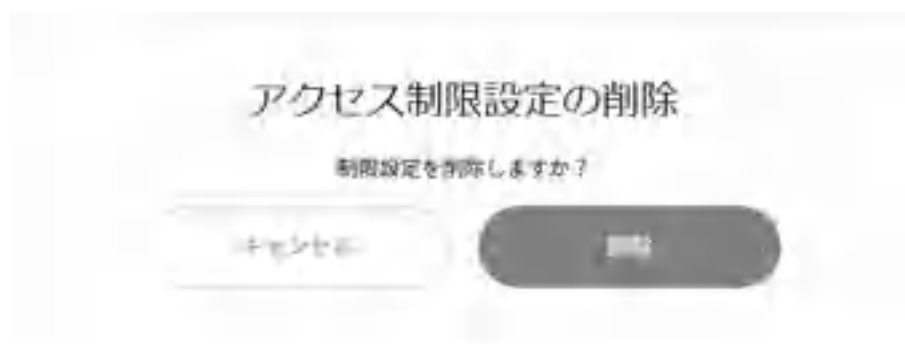


## ■アクセス制限設定の削除

Control Panel にログインし、「アクセス」項目内の「アクセス制限」に進み、対象項目左側にチェックを入れ、**削除**をクリックします。



確認画面が表示されますので、**削除**をクリックします。



一時的に制限を停止したい場合は「[アクセス制限の編集（一時的な停止を含む）](#)」の項目の無効化をご利用ください。

## データベース

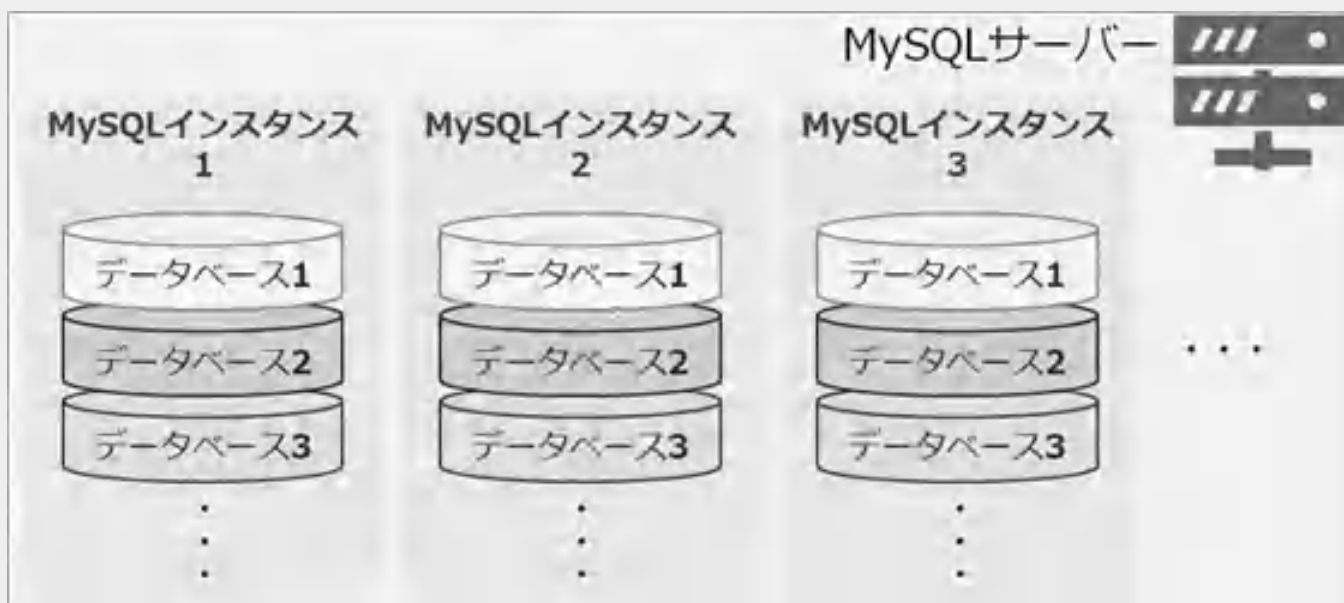
データベースのご利用には、別途、データベースオプションのお申し込みが必要です。

また、データベースの作成は、インスタンスを作成し、インスタンスの中にデータベースを作成するといった流れになります。

1. インスタンスの作成（1 インスタンスお申し込み後・初回のみ）
2. データベースの作成

※インスタンスとはデータベースを格納するフォルダのようなものです。（イメージ図参照）

インスタンスの作成は、契約者アカウント、および、メインドメインのドメイン管理者権限でのみ作成できます。



### MySQL データベース（MySQL5.7/8.0）

#### ■データベースの新規作成（インスタンスと 1 つ目のデータベースの作成）

契約者またはドメイン管理者で Control Panel にログインし、「データベース」から **インスタンス新規追加** をクリックします。



インスタンスおよびデータベース作成に必要な情報を選択および入力し、**保存**をクリックします。

**①使用ドメイン ※マルチドメインがない場合はこの項目の表示はございません。**

専用	対象のインスタンスを申し込んだドメイン以外には表示されません。
特定のマルチドメインも利用可能	指定したマルチドメイン 1 個も情報参照と設定変更を行えます。 プルダウンから対象のドメイン名の指定が行えます。
全てのマルチドメインも利用可能	全てのマルチドメインが情報参照の設定変更を行えます。

**②インスタンス設定**

バージョン	MySQL5.7 または MySQL8.0 のどちらかが選択可能です。
パスワード	データベースの接続ユーザーのログインパスワードを設定します。 使用できる文字は A-Z、a-z、0-9 で、6 文字以上 32 文字までです。 セキュリティ保持のため、必ず大文字、小文字、数字を混在させてください。
コメント	コメントにはインスタンスの管理をする際に分かりやすいよう利用目的等を入力することをおすすめします。なお、コメントは省略可能です。

③管理ユーザー	
契約者/ドメイン管理者	標準では契約者およびドメイン管理者のみが MySQL インスタンスの管理を行えますが、チェックを入れるとサイト管理者も情報参照や設定変更を行えます。
④データベース新規追加	
データベース名	データベースに任意の名前を付けられます。 使用できる文字は A-Z、a-z、0-9、アンダーバー（_）で、1 文字以上 20 文字までです。 指定したデータベース名の先頭には、ドメインごとのプレフィックス（接頭辞）が付きます。
コメント	入力できる文字数は半角 64 文字（全角 32 文字）までです。 コメントにはインスタンスの管理をする際に分かりやすいよう利用目的等を入力することをおすすめします。 なお、コメントは省略可能です。

「インスタンスを作成しました」と表示されたら作成完了です。

左メニュー「データベース」の一覧に、インスタンスとデータベースが表示されていますので、ご確認ください。

## ■インスタンスの編集

作成されているインスタンスの各種情報変更や、パスワードの確認・変更が行えます。

**データベースサーバー名、ポート番号、接続ユーザー名は、固定のため変更は行えません。**

契約者またはドメイン管理者で Control Panel にログインし、「データベース」からインスタンス枠右側の **詳細情報** をクリックします。



パスワードの確認のみの場合は、**表示** をクリックするとパスワードが表示されます。内容の編集を行う場合は、**編集** をクリックします。



内容を変更後、**保存**をクリックします。

※「使用ドメイン」の欄は、マルチドメインをご利用の場合のみ表示されています。

The screenshot shows the 'インスタンス編集' (Instance Edit) page. It includes the following fields and options:

- バージョン: MySQL 5.6
- インスタンス名: INSTANCE\_NAME
- データベースサーバー: [Redacted]
- ポート番号: 3306
- 接続ユーザー名: CONNECTED USER
- パスワード: [Redacted] (with a toggle for 'パスワードを公開する')
- 使用ドメイン: example.com 指定 (with checkboxes for '設定がマルチドメインにも対応可能' and '管理がマルチドメインにも対応可能')
- 管理ユーザー: 管理者 / ドメイン管理者 (checked) and サイト管理者にも対応可能 (unchecked)

A red box highlights the '保存' (Save) button at the bottom right of the form.

「インスタンスを編集しました」と表示されたら変更完了です。

パスワードを変更する場合には、インスタンス内にあるデータベースの接続ユーザー名のパスワードがすべて変更されます。  
アプリケーション等に連携されている場合には、設定ファイルに記述しているパスワード情報も変更が必要です。  
例：WordPress でご利用されている場合、wp-config.php ファイル内のパスワード記載欄の変更が必要です。



## ■データベースの作成

1 つ目のデータベースはインスタンス作成と同時に作成しています。

以下の手順は 2 つ目以降のデータベースを作成する場合の手順となります。

契約者またはドメイン管理者で Control Panel にログインし、「データベース」から **データベース新規追加** をクリックします。



データベース名とコメント（任意：空欄可）を入力し、**保存** をクリックします。



<b>①データベース名</b>	<p>データベースに任意の名前を付けられます。</p> <p>使用できる文字は A-Z、a-z、0-9、アンダーバー（_）で、1 文字以上 20 文字までです。</p> <p>指定したデータベース名の先頭には、ドメインごとのプレフィックス（接頭辞）が付きます。</p>
<b>②コメント</b>	<p>入力できる文字数は半角 64 文字（全角 32 文字）までです。</p> <p>コメントにはインスタンスの管理をする際に分かりやすい利用目的等を入力することをおすすめします。</p> <p>なお、コメントは省略可能です。</p>

「データベースを作成しました」と表示されたら作成完了です。

## ■データベースの編集

契約者またはドメイン管理者で Control Panel にログインし、「データベース」からインスタンス枠右側の **詳細情報** をクリックします。



画面を下にスクロールし、対象データベース右側の **編集** をクリックします。



データベース情報（コメント）を編集し、**保存** をクリックします。



## ■データベースの削除

契約者またはドメイン管理者で Control Panel にログインし、「データベース」からインスタンス枠右側の **詳細情報** をクリックします。



画面下部に表示される対象データベース左側のチェックボックスにチェックし、 **削除** をクリックします。



確認画面が表示されますので、 **削除** をクリックします。



## ■データベースの削除

契約者またはドメイン管理者で Control Panel にログインし、「データベース」からインスタンス枠右側の **phpMyAdmin** をクリックします。



別タブで phpMyAdmin のログイン画面が立ち上がり、左側にデータベース一覧が表示されます。



## データベース設定/旧データベース（MySQL5.1）

「旧データベース」は、旧 Control Panel でご利用いただいていた MySQL5.1 までの、古いバージョンのデータベースを管理するための機能です。

MySQL5.1 は開発元による不具合・脆弱性のサポート提供が終了しているため、新しいバージョンへの移行を推奨しております。  
また、MySQL4 および PostgreSQL はこの画面からはご利用いただけません。

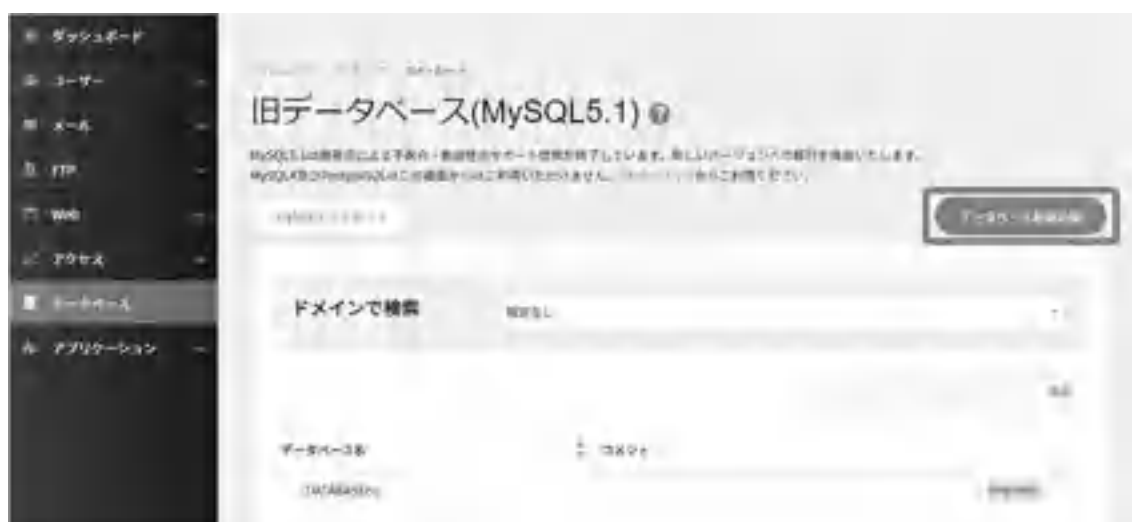
### ■データベースの設定

契約者またはドメイン管理者で Control Panel にログインし、「データベース」から左側の **旧データベース** をクリックします。

※旧データベースのご利用がない場合、グレイアウトしてクリックできないようになっています。



画面右側の **データベース新規追加** をクリックします



データベースを使用するドメインやパスワードなどを入力し、**保存**をクリックします。

※MySQL5.1 のデータベース名（接続ユーザー名）はシステム内部で決定されるため、ご入力できません。

使用ドメイン	プルダウンから対象ドメインを選択します。
コメント	用途などを記載します。 ※省略可能
パスワード	データベースのパスワードを設定します。 ※WordPress などの CMS の設定時に必要となりますので、控えておいてください。

データベースを追加した旨のポップアップが出たら追加完了です。

## ■データベースの確認・編集

作成された「データベース」の右側にある**詳細情報**をクリックします。



作成されたデータベースへの接続情報がご確認いただけます。

ディスク使用量 21.4MB / 100MB (21%)

① バージョン	mysql 5.1
② データベース名	DATABASE01
③ データベースサーバー	mysql2000.ocidared.compt.net
④ ポート番号	3306
⑤ パスワード	— <span>表示</span>
⑥ 使用ドメイン	設定なし
⑦ 他ドメインでの表示	する
⑧ コメント	

保存 パスワードをリセット コメントをリセット

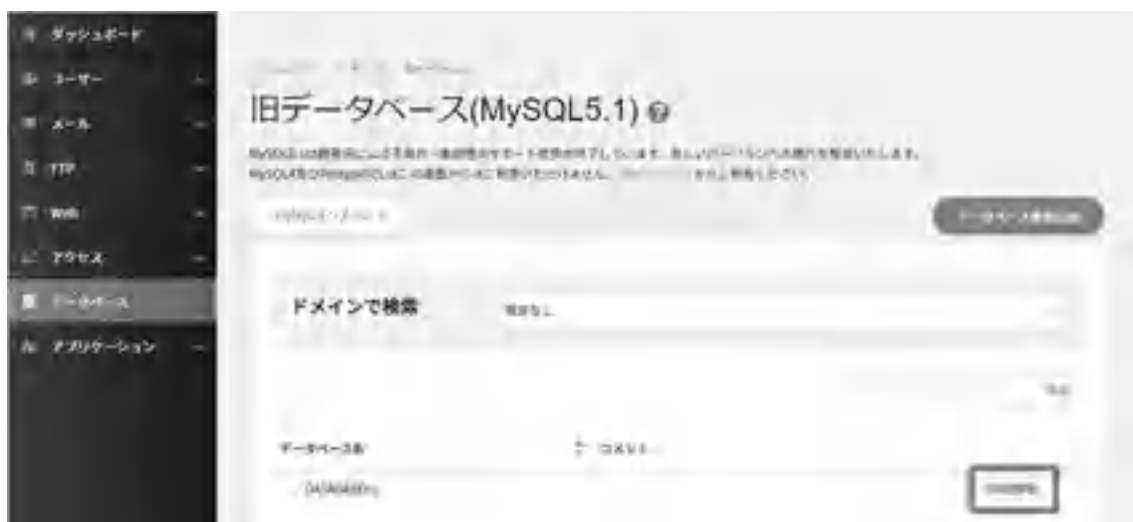
①バージョン	MySQL のバージョンが表示されます。
②データベース名(接続ユーザー名)	データベース名が表示されます。接続ユーザー名は、データベース名と同じです。
③データベースサーバー	データベースのサーバー名が表示されます。
④ポート番号	データベースが使用しているポート番号が表示されます。
⑤パスワード	データベース接続時のパスワードになります。 右側の表示ボタンをクリックするとパスワードのマスク表示が解除されます。 画面下部の <b>編集</b> をクリックすると、パスワードの変更が行えます。
⑥使用ドメイン	データベースを利用するドメインが表示されます。 画面下部の <b>編集</b> をクリックすると、使用するドメインの変更が行えます。
⑦他ドメインでの表示	他ドメインで表示させるかどうかが表示されます。 画面下部の <b>編集</b> をクリックすると、使用するドメインの変更が行えます。
⑧コメント	編集画面にて追加したコメントが表示されます。 画面下部の <b>編集</b> をクリックすると、コメントの変更が行えます。

## ■データベースのバックアップ

契約者またはドメイン管理者で Control Panel にログインし、「データベース」から左側の**旧データベース**をクリックします。



作成された「データベース」の右側にある**詳細情報**をクリックします。



表示されたデータベース詳細情報の**バックアップ**をクリックします。





ダンプファイルを直接ダウンロードするか、Web 領域へのバックアップをするかどちらかをご選択いただけます。



バックアップにはお時間がかかる場合があります。

再度、バックアップの画面まで移動し、「データベースのバックアップが完了しました。」と表示されていればバックアップ完了です。



## ➤ Web 領域へのバックアップの確認

Web 領域へのバックアップを選択した場合、ファイルマネージャーよりバックアップ用のフォルダが作成されておりますので、その中にバックアップデータが保存されているかご確認ください。



## ■データベースのリストア

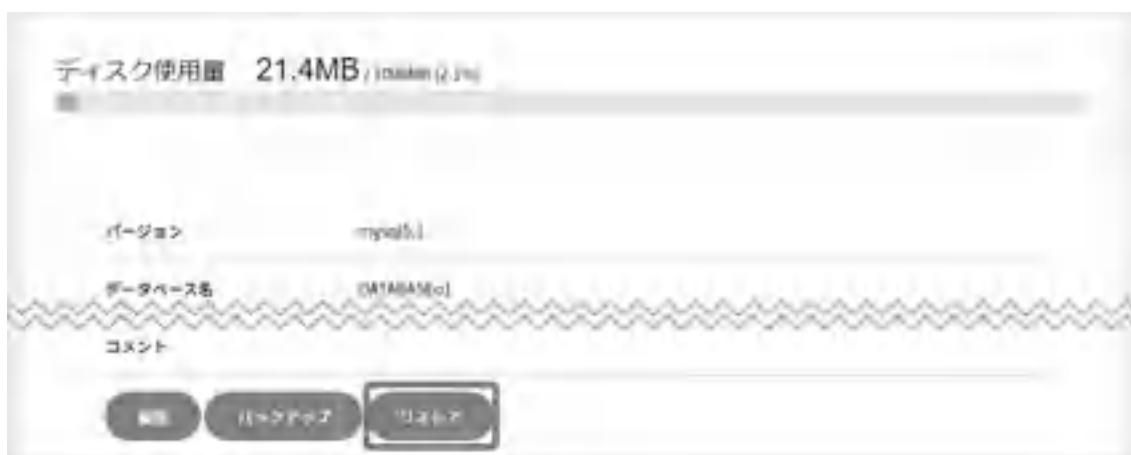
契約者またはドメイン管理者で Control Panel にログインし、「データベース」から左側の **旧データベース** をクリックします。



作成された「データベース」の右側にある**詳細情報**をクリックします。



表示されたデータベース詳細情報の**リストア**をクリックします。



ダンプファイルを直接アップロードするか、Web 領域にあるバックアップをリストアするかどちらかをご選択いただけます。

**開始** をクリックすると、確認画面が表示されますので、**リストアする** をクリック。

データベースをリストアします。現在のデータベースは削除されます。

対象データベース DATABASE01

① ファイルから

ダンプファイルをアップロードしてデータベースをリストアします (200MBまで)

アップロード DATABASE01\_... .bxc

ファイルの文字コード UTF-8

リストア

② バックアップから

Web領域のバックアップからデータベースをリストアします。

バックアップをリストアする

バックアップをリストアする

ファイル名	作成日時
DATABASE01_... .bxc	2021/04/15 11:41
DATABASE01_... .bxc	2023/01/26 11:42

リストア

データリストア

データベースの内容は上書きされます。  
本当にデータをリストアしますか?

キャンセル リストアする

リストアにはお時間がかかる場合があります。

再度、リストアの画面まで移動し、「データベースのリストアが完了しました。」と表示されていればリストア完了です。



## アプリケーション

### アプリインストーラー

WordPress（ワードプレス）など広く利用されている人気アプリケーションや、掲示板、アクセスカウンタ、フォームメールなど利用頻度の高い CGI のインストールと設定管理ができます。

※WordPress など、データベースが必要なアプリケーションをインストールする場合は、事前にデータベースを作成しておく必要があります。

### インストール

「アプリケーション」から「アプリインストーラー」に進み、利用したいアプリケーションにチェックをいれ、**インストール設定に進む**をクリックします。



## ■WordPress

インストール

アプリケーション: WordPress

インストール先ディレクトリ:

MySQLデータベース

データベース選択:

データベース名:

コメント:

PHPバージョン選択:

承諾する ☐

インストール

公開 URL	公開するサイトの URL(ディレクトリ)を、空白以外の任意で指定します。 ※空白ではなく、ディレクトリ名をご入力ください。
インスタンス	プルダウンから選択します。選択肢がない場合は、インスタンスの作成が行われていないため、MySQL データベース画面でインスタンスの設定を行ってください。
データベース	プルダウンからデータベースを選択します。アプリケーション用のデータベースを用意していない場合は、新規作成を選択すると、インストール時にデータベースが作成されます。
データベース名	※上記で「新規作成」を選択した場合のみ表示されます。データベース名を入力します。
コメント	※上記で「新規作成」を選択した場合のみ表示されます。データベース名に任意のコメントを追加できます。(省略可)初期値で年月日とアプリケーション名が入っています。
PHP バージョン選択	推奨環境は、PHP7(PHP7.4)となります。5.6 になっている場合には、動作に影響がないかご確認ください。
承諾する	チェックを入れます。

## ■Movable Type

インストール

アプリケーション Movable Type

インストール先ディレクトリ

MySQLデータベース データベース選択 インスタンス GLIDE DATABASE ☐ データベース prefix\_glide ☐

Movable Type 設定 ☐

連絡用メールアドレス

承諾する ☐

インストール開始

公開 URL	公開するサイトの URL(ディレクトリ)を、空白以外の任意で指定します。 ※空白ではなく、ディレクトリ名をご入力ください。
インスタンス	プルダウンから選択します。選択肢がない場合は、インスタンスの作成が行われていないため、MySQL データベース画面でインスタンスの設定を行ってください。
データベース	プルダウンからデータベースを選択します。アプリケーション用のデータベースを用意していない場合は、新規作成を選択すると、インストール時にデータベースが作成されます。
データベース名	※上記で「新規作成」を選択した場合のみ表示されます。 データベース名を入力します。
コメント	※上記で「新規作成」を選択した場合のみ表示されます。 データベース名に任意のコメントを追加できます。(省略可) 初期値で年月日とアプリケーション名が入っています。
メールアドレス	管理用のメールアドレスを入力します。
承諾する	チェックを入れます。



## アンインストール

「アプリケーション」から「アプリインストーラー」に進み、インストール済みアプリを表示 をクリックします。



削除対象アプリケーションの右側の削除 をクリックします。 ※このボタンをクリックしてもまだ削除はされません。



確認画面が表示されますので、内容を確認の上、削除 をクリックします。



「選択したアプリケーションのアンインストールが完了しました。」と表示されたら完了です。

※アプリケーションで使用していたデータベースが不要な場合にはデータベースの削除を行ってください。



## 標準 CGI

「アプリケーション」から「アプリインストーラー」に進み、標準 CGI の下部に表示される **管理画面を表示** をクリックします。



利用可能な CGI の一覧が表示されますので、適宜設定を行ってください。

設定方法は、旧 Control Panel ご利用時と同様の操作となります。

- 簡易掲示板
- スレッド式掲示板
- アクセスカウンタ
- フォームメール
- ランダムバナー
- ランダムリンク
- ランダムテキスト
- タイムテキスト